

広島商船高等専門学校	流通情報工学科	開講年度	令和05年度 (2023年度)
------------	---------	------	-----------------

学科到達目標

流通・ビジネス系または情報・通信系に関わる基本的な知識と技術を身につけ、ICT社会において活躍できるビジネスパーソンまたは情報技術者をを目指す。

- (1) 情報基礎、データ解析・統計、経営などのビジネス分野の基礎知識を修得する。
- (2) 流通・ビジネス系では、物流、会計、経営、市場、管理などのビジネス分野の専門知識・技術を身につける。
- (3) 情報系では、ソフトウェア、システム、ネットワークなど、情報分野の専門知識・技術を身につける。
- (4) ビジネススキル・マナーの実技や卒業研究に取り組み、管理能力や課題解決能力を身につける。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科/コース	開講年次	共通・学科	教員名
	5	コーポレートガバナンス	金子春生
流通情報工学科	4	商法	金子春生
	4	マーチャンダイジング	内山憲子
	4	特別学修	※

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
専門	必修	専門基礎 (情報)	1914001	履修単位	2	2																	藤原宗幸			
専門	必修	専門基礎 (流通)	1914002	履修単位	2	2																	田上敦士, 風本武典, 呂典子, 金春生			
専門	必修	流通演習	1924001	履修単位	2			2	2														岡山正人			
専門	必修	流通情報工学実習	1924002	履修単位	2			2	2														岩切裕哉			
専門	必修	コンピュータ概論	1924003	履修単位	2			2	2														藤原宗幸			
専門	必修	流通と情報	1924004	履修単位	2			2	2														内山憲子			
専門	必修	情報演習	1924005	履修単位	2			2	2														加藤博明			
専門	必修	社会人基礎力演習	1934001	履修単位	2							2	2										中道豪一, 岡山正人			
専門	必修	情報基礎 (情報)	1934002	履修単位	2							2	2										寺下貴展			
専門	必修	情報基礎 (経営)	1934003	履修単位	2							2	2										岡山正人			
専門	必修	知的財産基礎	1934004	履修単位	2							2	2										金子春生			
専門	必修	統計学	1934005	履修単位	2							2	2										岡山正人			
専門	必修	財務会計	1934006	履修単位	2							2	2										風呂本武典			
専門	必修	プログラミング基礎	1934007	履修単位	2							2	2										岩切裕哉			
専門	必修	オペレーティングシステム基礎	1934008	履修単位	2							2	2										遠入大二			
専門	必修	プログラミング基礎演習	1934009	履修単位	2								4										岸拓真, 藤原宗幸			
専門	必修	会計学	1934010	履修単位	2							2	2										田上敦士			
専門	必修	物流概論	1934011	履修単位	2							2	2										寺下貴展			
専門	必修	簿記演習	1934012	履修単位	2								4										風呂本武典			
専門	選択	特別学修	0020	履修単位	1											1	1						岡山正人			
専門	必修	ビジネス基礎	1944011	履修単位	2											2	2						岡山正人, 中道豪一			
専門	必修	ビジネス英語 I	1944012	履修単位	2											2	2						小川春樹			
専門	必修	現代ビジネス	1944013	学修単位	2												2						田上敦士, 金春生			

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	専門基礎 (情報)
科目基礎情報					
科目番号	1914001	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	藤原 宗幸				
到達目標					
(1)プログラムの作り方、動作の仕組みを理解する。 (2)ブレインストーミングができるようになる。 (3)プレゼンテーションができるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Processingの使い方を理解し、簡単なプログラムが作成でき、動作を説明できる。プログラムの間違いの原因を考え、修正できる。	Processingの使い方を理解し、簡単なプログラムが作成できる。プログラムの間違いの原因を考え、修正できる。	Processingを用いて、簡単なプログラムが作成できない。		
評価項目2	Processingを使い、オリジナルの作品を作ることができる。作成したプログラムについて解説できる。	Processingを使い、簡単な作品を作ることができる。	Processingを使い、簡単な作品を作ることができない。		
評価項目3	企画立案し、企画通りに作品を作ることができる。制作した作品についてプレゼンテーションできる。	企画立案し、作品を作ることができる。制作した作品についてプレゼンテーションできる。	企画立案できない。作品を作ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	Processingによるプログラミングを通して、コンピュータのプログラムのどのように動作するのか仕組みを理解する。また、プログラム開発の基本的な手法を体験的に学ぶ。あわせて論理的思考の修得を目指す。作品作りを通して、課題設定や解決方法を身につけ、作品の発表によりプレゼンテーションスキルを身につける。				
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。演習課題をレポートとして提出してもらう。課題は必ず提出すること。開発環境としてOpenProcessing(https://www.openprocessing.org)を使用する。				
注意点	不明な点があれば、Blackboardの掲示板、Microsoft Teamsまたは研究室まで質問しに来てください(昼休みにはなるべく研究室にいるようにしています)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Processingの基礎	Processingの操作方法を理解できる。	
		2週	Processingの基礎	図形を描画するプログラムが作成できる。	
		3週	Processingの基礎	変数を使用したプログラムが作成できる。	
		4週	制御構造	if文を使用したプログラムが作成できる。プログラムの処理手順が理解できる。	
		5週	制御構造	if文を使用したプログラムが作成できる。プログラムの処理手順が理解できる。	
		6週	制御構造	if文を使用したプログラムが作成できる。プログラムの処理手順が理解できる。	
		7週	制御構造	複雑な条件式を用いて、分岐処理を記述できる。	
		8週	制御構造	複雑な条件式を用いて、分岐処理を記述できる。	
	2ndQ	9週	入力	マウスやキーボードに反応するプログラムが作ることができる。	
		10週	入力	マウスやキーボードに反応するプログラムが作ることができる。	
		11週	作品作り	簡単な作品をつくることができる。	
		12週	作品作り	簡単な作品をつくることができる。	
		13週	作品作り	簡単な作品をつくることができる。	
		14週	作品作り	簡単な作品をつくることができる。	
		15週	作品作り	自分の作品について発表することができる。	
		16週	作品作り	作品の相互評価ができる。	
後期	3rdQ	1週	繰り返し	繰り返し処理を使用したプログラムが作成できる。	
		2週	繰り返し	繰り返し処理を使用したプログラムが作成できる。	
		3週	繰り返し	繰り返し処理を使用したプログラムが作成できる。	
		4週	繰り返し	繰り返し処理を使用したプログラムが作成できる。	
		5週	関数	関数を使用したプログラムが作成できる。	
		6週	関数	関数を使用したプログラムが作成できる。	
		7週	関数	関数を使用したプログラムが作成できる。	

4thQ	8週	関数	関数を使用したプログラムが作成できる。
	9週	関数	関数を使用したプログラムが作成できる。
	10週	作品作り2	これまで学習した内容をもとに、作品を作ることができる。
	11週	作品作り2	これまで学習した内容をもとに、作品を作ることができる。
	12週	作品作り2	これまで学習した内容をもとに、作品を作ることができる。
	13週	作品作り2	これまで学習した内容をもとに、作品を作ることができる。
	14週	作品作り2	これまで学習した内容をもとに、作品を作ることができる。
	15週	作品作り2	自分の作品について発表することができる。
	16週	作品作り2	作品の相互評価ができる。

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	70	0	0	0	100
基礎的能力	0	30	70	0	0	0	100

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	専門基礎 (流通)
科目基礎情報					
科目番号	1914002	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	ビジネス基礎新訂版 (実教出版)				
担当教員	田上 敦士, 風呂本 武典, 金子 春生				
到達目標					
(1)流通と生活の関係からその役割が説明できる。 (2)小売業の形態が説明できる。 (3)卸売業の形態が説明できる。 (4)流通戦略が説明できる。 (5)基本的なレポートの書き方を理解できる。 (6)プレゼンテーションソフトを利用して基本的な作業ができる。 (7)グループワークで協調性ある行動ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	生産と消費を結ぶ流通の役割が説明できる。	流通の基本的な用語が理解できる。	流通の基本的な用語が理解できない。		
評価項目2	業種・業態分類で小売業の形態が説明できる。	小売業の基本的な用語が理解できる。	小売業の基本的な用語が理解できない。		
評価項目3	卸売業の機能やその種類といった形態が説明できる。	卸売業の基本的な用語が理解できる。	卸売業の基本的な用語が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	流通情報工学科での専門教育への導入に必要な基礎知識を習得する。流通のしくみ、小売業とは何か、卸売業とは何か、流通を支える機能、商取引とマーケティング、情報化と流通などの基礎的な知識を学習する。				
授業の進め方・方法	(1)教科書を暗記するのではなく授業中の解説を記入し、自学自習ノートとしてしっかりと整理すること。 (2)シラバスの項目内容を確認して予習をしておくこと。また、復習のためにレポート課題を適宜出題するので期限内に必ず提出すること。 (3)定期試験時に講義メモ(ノート)チェックを実施し評価の対象とすることがある。 (4)複数人で担当するので授業内容が前後したり項目などが入れ替わることがある。				
注意点	座学を中心としますが、途中で関連分野をテーマとしたグループワークを行います。グループワークの作業に必要なアプリケーションソフトの演習は専門基礎(情報)で学習します。グループワークはレポート課題および取り組み姿勢やプレゼンテーション等で評価します。使用する教科書は、高学年においても使用するので、卒業時まで捨てないようにする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.流通と生活	1-(1) 生産と消費を結びつける流通のしくみを理解する。	
		2週	1.流通と生活	1-(2) 流通の発達と豊かな生活の関係を理解する。	
		3週	1.流通と生活	1-(3) 流通チャネルを理解する。	
		4週	1.流通と生活	1-(4) 独特の商慣習がある日本の流通を理解する。	
		5週	1.流通と生活	1-(5) 生産と消費の変化と流通の進展を理解する。	
		6週	2.小売業	2-(1) 生産と消費の手間を省く小売業の機能を理解できる。	
		7週	2.小売業	2-(2) 小売業の業種分類と業態分類が理解できる。	
		8週	2.小売業	2-(3) チェーン小売業やプライベートブランドが理解できる。	
	2ndQ	9週	2.小売業・情報通信業	2-(4) バーコードとPOSシステムが理解できる。	
		10週	2.小売業・情報通信業	2-(5) 小売業の技術革新が理解できる。	
		11週	3.卸売業・金融業	3-(1) メーカーと小売業を結ぶ卸売業の機能が理解できる。	
		12週	3.卸売業	3-(2) 小売業の仕入れや品揃えを支える卸売業が理解できる。	
		13週	3.卸売業・情報通信業	3-(3) メーカーの販売と情報収集を支える卸売業が理解できる。	
		14週	3.卸売業	3-(4) 卸売業の分類ができる。	
		15週	3.卸売業・物流業	3-(5) ロジスティクスが理解できる。	
		16週	テスト	前期を振り返り、学習内容を整理し、答案にまとめることができる。	
後期	3rdQ	1週	4.流通戦略 (企業活動)	4-(1) マーケティングの基礎が理解できる。	
		2週	4.流通戦略 (企業活動)	4-(2) 流通チャネルの選び方が理解できる。	
		3週	4.流通戦略 (企業活動)	4-(3) メーカーと流通業との関係が理解できる。	
		4週	4.流通戦略 (企業活動)	4-(4) 資金調達や危険回避、企業倫理に基づいた活動が理解できる。	

4thQ	5週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(1) 命題(テーマ)が理解できる。
	6週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(2) グループの役割が分担できる。
	7週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(3) グループで議論できる。
	8週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(4) 文書作成ツールを利用してレポートが作成できる。
	9週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(5) プレゼンテーションツールを利用して発表資料が作成できる。
	10週	5.グループワーク（ビジネスコミュニケーション）	5-(6) スケジュールが管理できる。
	11週	6. ビジネスと売買	6-(1)売買取引の手順が理解できる。
	12週	6. ビジネスと売買	6-(2)代金決済の方法が理解できる。
	13週	6. ビジネスと売買	6-(3)売買に関する計算ができる。
	14週	6. ビジネスと売買	6-(4)売買に関する計算の応用ができる。
	15週	テスト	後期を振り返り、学習内容を整理し、答案にまとめることができる。
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	20	0	20	0	60	200
基礎的能力	50	10	0	10	0	30	100
専門的能力	50	10	0	10	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	流通演習
科目基礎情報					
科目番号	1924001		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 特にありません。必要に応じて関係資料を配布				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
(1) 流通情報工学科の専門分野について説明できる。 (2) 各専門分野の概要について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	流通情報工学科の専門分野と社会との関係性について説明できる。	流通情報工学科の専門分野と社会との関係性を示す基本的な用語について理解できる。	流通情報工学科の専門分野と社会との関係性を示す基本的な用語について理解できない。		
評価項目2	各専門分野の概要について説明できる。	各専門分野の概要を示す基本的な用語について理解する。	各専門分野の概要を示す基本的な用語について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	流通情報工学科の5年間で学習する内容を理解するために、全教員が各自の専門分野について、流通情報工学(流通・ビジネスコースおよび情報通信コース)との関係を明らかにし、3年次からのコース選択のための導入科目とする。また、その延長に業界・業種・職種の紹介を行いキャリア教育のスタートとする。				
授業の進め方・方法	(1)流通情報工学科の全教員が概ね3週間ずつ担当する。各教員が担当する専門分野と流通情報工学との関係を説明する。口頭による説明あるいはパワーポイント等を用いた説明を行う。 (2)遠隔授業や講義、グループワークなどによる授業を基本とするが、適宜変更を指示する。 (3)レポート課題を適宜出題するので期限内に必ず提出すること。 (4)定期試験は行わず、小テスト、提出物、学習態度、グループワーク等を考慮して各教員が評価する。全教員の評価を取りまとめ最終的な評価とする。 (6)学年末に3年次からのコース選択のガイダンスを行う。				
注意点	【担当: 流通情報工学科各教員】				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	1.社会科学とは	1-(1) 社会をどうやってみる、どの物差しで見えるかが理解できる。	
		3週	1.社会科学とは	1-(2) 社会規範と法律が理解できる。	
		4週	1.社会科学とは	1-(3) 社会の発展と知的財産が理解できる。	
		5週	2.情報ネットワーク	2-(1) インターネットとは何かが理解できる。	
		6週	2.情報ネットワーク	2-(2) プロトコルとは何かが理解できる。	
		7週	2.情報ネットワーク	2-(3) 階層プロトコルと暗号技術の基礎が理解できる。	
		8週	3.物流における輸送の基本概念	3-(1) 貨物輸送の歴史と機械化が理解できる。	
	2ndQ	9週	3.物流における輸送の基本概念	3-(2) トラック輸送とトラックターミナル、鉄道コンテナ輸送とコンテナターミナルが理解できる。	
		10週	3.物流における輸送の基本概念	3-(3) 海上輸送と港湾施設、貨物用航空機と空港ターミナルが理解できる。	
		11週	4.物流を勉強するとは	4-(1) 卒業研究を例とした物流研究の実際が理解できる。	
		12週	4.物流を勉強するとは	4-(2) データ解析の必要性が理解できる。	
		13週	4.物流を勉強するとは	4-(3) 卒業研究を例にしたデータ解析の実際が理解できる。	
		14週	5.流通情報工学とは	5-(1) 何を勉強するのだろうか? 将来は何を目指すのだろうか? が理解できる。	
		15週	5.流通情報工学とは	5-(2) 流通とまちづくりはどんな関係があるのだろうか? が理解できる。	
		16週	5.流通情報工学とは	5-(3) 流通とビジネスはどんな関係があるのだろうか? が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	6.マクロとミクロの世界	6-(1) 宇宙のはじまり、インフレーションが理解できる。	
		2週	6.マクロとミクロの世界	6-(2) 力と粒子、弦が理解できる。	
		3週	6.マクロとミクロの世界	6-(3) コンピュータの世界、量子暗号、シミュレーションが理解できる。	
		4週	7.経済と流通	7-(1) 経済活動と流通の役割が理解できる。	
		5週	7.経済と流通	7-(2) 流通分野での企業活動が理解できる。	
		6週	7.経済と流通	7-(3) 企業活動の記録方法とその内容の分析が理解できる。	

4thQ	7週	8.配置問題の考え方	8-(1) なぜ、配置問題が必要なのかが理解できる。
	8週	8.配置問題の考え方	8-(2) 商業施設、物流施設の立地実態が理解できる。
	9週	8.配置問題の考え方	8-(3) 配置問題による理想的な施設の配置が理解できる。
	10週	9..コンピュータ	9-(1) コンピュータとは何かが理解できる。
	11週	9..コンピュータ	9-(2) ソフトウェアとは何かが理解できる。
	12週	9..コンピュータ	9-(3) ソフトウェアの基礎が理解できる。
	13週	10.経営学について	10-(1) 何故"学ぶ"のか、「経営とは何か・考え、伝えるとは何か」が理解できる。
	14週	10.経営学について	10-(2) 目標管理・タイムマネジメントが理解できる。
	15週	10.経営学について	10-(3) 報告・連絡・相談、思考と整理が理解できる。
16週	コース選択ガイダンス		

評価割合

	試験	発表	相互評価			レポート・課題 ・態度など	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	流通情報工学実習
科目基礎情報					
科目番号	1924002	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 「基礎C言語」 (株) アंक著、インプレス				
担当教員	岩切 裕哉				
到達目標					
(1) コンピュータの仕組みを理解する。 (2) 基本的なC言語のプログラムが作成できる。 (3) フローチャートがかけられる。 (4) プログラムの誤りを発見し、修正できる。 (5) タッチタイピングできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。プログラムの処理手順を説明できる。	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解していない。		
評価項目2	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタについて理解し、自由にプログラムを作ることができる。	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタについて理解し、簡単なプログラムを作ることができる。	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタについて理解していない。		
評価項目3	正確かつ高速にタッチタイピングできる。	タッチタイピングできる	タッチタイピングできない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、C言語の基礎について学び、論理思考の修得を目指す。また、PCの基本的操作であるキーボードのタッチタイピングの修得を目指す。				
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。演習課題をレポートとして提出してもらう。課題は必ず提出すること。 授業で使用する環境は以下のwebサービスを利用する。 ・ C言語開発環境: paiza.io (https://paiza.io/ja) ・ TechFUL: https://techful-programming.com/ ・ タイピング練習環境: e-typing (https://www.e-typing.ne.jp/) 寿司打 (http://typingx0.net/sushida/)				
注意点	不明な点があれば、Blackboardの掲示板、Teamsのチャット/通話、メールで質問してください。 Teams ID・メール: iwakiri@hiroshima.kosen-ac.jp 質問の仕方: 具体的に質問するようにしてください。スクリーンショットやプログラムを添付するのも解決の助けになります。 × 「分かりません」 ◎ 「〜のように考えて、プログラムを〜のように作ってみたけれど、〜のエラーが出てしまう」 ◎ 「〜のように考えて、プログラムを〜のように作ってみたけれど、結果が〜となってしまいました」				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス C言語の基礎 タイピング	C言語について説明できる。 タッチタイピングできる。	
		2週	C言語の基礎	プログラミングの手順を把握し、実行できる。 入出力関数を用いた例題を解くことができる。	
		3週	C言語の基礎	データ型の種類を挙げ、各種適切に使い分けられる。 四則演算を正しく行うことができる。 変数について説明できる。	
		4週	C言語の基礎	if文を適切に用いることができる。 複雑な条件式を用いて、分岐処理を記述することができる。	
		5週	C言語の基礎	switch文を適切に用いる事ができる。	
		6週	C言語の基礎	for文を適切に用いる事ができる。 while文を適切に用いる事できる。	
		7週	前期中間試験答案返却・解説 タイピング試験		
		8週	配列	配列を用いた簡単なプログラムを組むことができる。	
	2ndQ	9週	配列、文字	文字列と配列の関係を理解し、簡単なプログラムを作ることができる。 文字コードを説明できる。	
		10週	関数	標準ライブラリ関数を利用することができる。	
		11週	関数	ユーザ関数を用いたプログラムを作ることができる。	
		12週	関数	ユーザ関数を用いたプログラムを作ることができる。	
		13週	変数の種類、記号定数	変数の種類を理解し、適切に使い分けられることができる。 記号定数を使う。	

		14週	ポインタ	アドレス、ポインタについて説明できる。 ポインタと配列の関係を理解し、それぞれ適切に利用できる。
		15週	ポインタ	アドレス、ポインタについて説明できる。 ポインタと配列の関係を理解し、それぞれ適切に利用できる。
		16週	前期末試験答案返却・解説 タイピング試験	
後期	3rdQ	1週	ポインタ	アドレス、ポインタについて説明できる。 ポインタと配列の関係を理解し、それぞれ適切に利用できる。
		2週	ポインタ	アドレス、ポインタについて説明できる。 ポインタと配列の関係を理解し、それぞれ適切に利用できる。
		3週	ソートアルゴリズム	マージソート、選択ソートのプログラムを作ることができる。
		4週	ソートアルゴリズム	マージソート、選択ソートのプログラムを作ることができる。
		5週	行列の計算	2次元配列を利用して行列の計算ができる
		6週	行列の計算	2次元配列を利用して行列の計算ができる
		7週	中間試験答案返却・解説 タイピング試験	
		8週	行列の計算	2次元配列を利用して行列の計算ができる
	4thQ	9週	行列の計算	2次元配列を利用して行列の計算ができる
		10週	構造体	構造体を利用したプログラムを作ることができる
		11週	構造体	構造体を利用したプログラムを作ることができる
		12週	構造体	構造体を利用したプログラムを作ることができる
		13週	構造体	構造体を利用したプログラムを作ることができる
		14週	復習	これまで学習したC言語の復習
		15週	復習	これまで学習したC言語の復習
		16週	学年末試験答案返却・解説 タイピング試験	

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	コンピュータ概論
科目基礎情報					
科目番号	1924003	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	最新情報の科学 新訂版 (実教出版)				
担当教員	藤原 宗幸				
到達目標					
(1) 情報を収集・処理・発信するための基本的なハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関する知識を活用できる。 (2) 特定の課題に対し、アルゴリズムを考え、記述できる。 (3) 情報セキュリティに配慮して情報を正しく取り扱うことができる。 (4) 自らの専門分野に応じて情報技術の知識・技能を説明し、活用できる。 (5) 数理・データサイエンス・AIを使う素養を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	情報処理のためのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークを説明できる。	情報処理のためのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの概要を説明できる。	情報処理のためのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの概要を説明できない。		
評価項目2	特定の課題に対するアルゴリズムを考えることができる。	特定の課題に対する与えられたアルゴリズムを理解できる。	特定の課題に対する与えられたアルゴリズムを理解できない。		
評価項目3	自らの専門分野に関する情報技術の知識技能を活用できる。	自らの専門分野に関する情報技術の知識を説明できる。	自らの専門分野に関する情報技術の知識を説明できない。		
評価項目4	数理・データサイエンス・AIの素養を身につけている。	数理・データサイエンス・AIの素養を理解している。	数理・データサイエンス・AIの素養を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	専門分野によらずセキュリティに配慮して情報を正しく取り扱い、情報技術を活用し、課題解決のための基本的なアルゴリズムを考えてプログラムを作成できることを目標とする。 また、数理データサイエンス・AIを日常生活・仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につけ、自らの専門分野に応じてこれらの知識・技能を説明し、活用できるようになることを目標とする。				
授業の進め方・方法	(1) 講義形式で実施する。 (2) 授業前後に確認テストをおこない、その点数を成績決定に使用する。 (3) すべての確認テストを必ず受験すること。				
注意点	(1) 授業に積極的に参加すること。 (2) 提出物は必ず期限内に提出すること。 (3) 教科書を参考に予習、復習しておくこと。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、授業時間内、時間外にかかわらず質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	情報基礎	社会の情報化の進展と課題について理解し説明できる。	
		2週	情報基礎	代表的な情報システムとその利用形態について説明できる。	
		3週	情報基礎	コンピュータの構成とオペレーティングシステムの役割を理解し、基本的な取り扱いができる。 アナログ情報とデジタル情報のちやとコンピュータ内におけるデータの表現方法について説明できる。	
		4週	情報基礎	情報と適切に収集・取得できる。 データベースの意義と概要について説明できる。	
		5週	プログラミングとアルゴリズム	基礎的なプログラムを作成できる。 計算機を用いて数学的な処理をおこなうことができる。	
		6週	プログラミングとアルゴリズム	基礎的なアルゴリズムについて理解し、任意のプログラミング言語を用いて記述できる。 同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しうることを説明できる。	
		7週	メディア	情報の真偽について、根拠に基づいて検討する方法を説明できる。 情報の適切な表現方法と伝達手段を選択し、情報の送受信をおこなうことができる。	
		8週	ネットワーク	情報通信ネットワークの仕組みや構成および構成要素、プロトコルの役割や技術についての知識を持ち、社会における情報通信ネットワークの役割を説明できる。	
	2ndQ	9週	情報セキュリティ	情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明できる。	
		10週	情報セキュリティ	情報セキュリティを支える暗号技術の基礎を説明できる。 情報セキュリティに基づいた情報へのアクセス方法を説明できる。	

後期		11週	情報セキュリティ	情報や通信に関連する法令や規則等と、その必要性について説明できる。 情報社会で生活する上でのマナー・モラルの重要性について説明できる。	
		12週	情報セキュリティ/データサイエンス・AI	情報セキュリティを運用するための考え方と方法を説明できる。 データサイエンス・AI技術の概要を説明できる。	
		13週	データサイエンス・AI	データサイエンス・AI技術が社会や日常生活における課題解決の有用なツールであり、様々な専門領域の知見と組み合わせることによって価値を創造するものであることを、活用事例をもとに説明できる。 データサイエンス・AI技術を活用する際に求められるモラルや倫理について理解し、データを守るために必要な事項を説明できる。	
		14週	データサイエンス・AI	データサイエンス・AI技術の利活用に必要な基本的なスキルを使うことができる。 自らの専門分野において、データサイエンス・AI技術と社会や日常生活との関わり、活用方法について説明できる。	
		15週	学年末試験		
		16週	学年末試験の返却と解説		
	3rdQ	1週	半導体	半導体の結晶構造・格子の概念が説明できる。	
		2週	半導体	電子の波動性・粒子性について説明できる。	
		3週	半導体	導体の光吸収・発光の原理が説明できる。 半導体の熱電的特性が説明できる。	
		4週	AI・数理データサイエンス	『(AI+DS) × 専門知識』で社会課題に挑戦する	
		5週	AI・数理データサイエンス	AI・データサイエンスなどの情報科学素養と経営視点を身に付け、活きた専門知識で新たな価値に挑戦	
		6週	AI・数理データサイエンス	AI・データサイエンスなどの情報科学素養と経営視点を身に付け、活きた専門知識で新たな価値に挑戦	
		7週	ロボット	動的プランニングについて説明できる	
		8週	ロボット	静的プランニングについて説明できる	
		4thQ	9週	ロボット	ロボットの目標達成のために必要な行動を決定するプランニングの重要性を説明できる
			10週	IoT	地域産業を課題として地域企業と共に課題解決するためのIoTの積極的活用
11週	IoT		蓄積してきたIoT応用技術のノウハウを、IoTの基礎から地域課題への応用		
12週	IoT		IoTの社会実装を促進するため、発想力の優れた学生が企業化を目指すアントレプレナーシップ教育		
13週	サイバーセキュリティ		情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。		
14週	サイバーセキュリティ		個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。		
15週	サイバーセキュリティ		インターネット（SNSを含む）やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している。		
16週	学年末試験 答案返却・解説				

評価割合

	試験	小テスト・課題	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	流通と情報
科目基礎情報					
科目番号	1924004		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	特になし				
担当教員	内山 憲子				
到達目標					
(1) 我が国の産業の変化を理解し、消費生活が向上し消費形態が変化してきていることを理解する。 (2) 生産と消費の分離から商品が誕生し、その商品の特性や売上の仕組み、多様化を通して商品開発の考え方を理解する。 (3) 流通の仕組みやサプライチェーン、消費者対応の流通のあり方について理解し、物流・金融・保険の役割についても理解する。 (4) 流通における情報と通信の役割を理解し、流通情報システムの構築やICT社会の基礎を理解する。 (5) 経済の発展と新しいサービス産業、ベンチャービジネス時代の商品研究について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	我が国の産業の変化を理解し、消費生活が向上し将来の消費形態が変化を予測して説明できる。	我が国の産業の変化を理解し、消費生活が向上し現時点での消費形態の変化を説明できる。	我が国の産業の変化を理解し、消費生活が向上し現時点での消費形態の変化を説明できない。		
評価項目2	生産と消費の分離から商品が誕生し、その商品の特性や売上の仕組み、多様化を通して新しい商品開発の考え方を提案できる。	生産と消費の分離から商品が誕生し、その商品の特性や売上の仕組み、多様化を通してこれまでの商品開発を説明できる。	生産と消費の分離から商品が誕生し、その商品の特性や売上の仕組み、多様化を通してこれまでの商品開発を説明できない。		
評価項目3	流通の仕組みやサプライチェーン、消費者対応の流通のあり方について理解し、物流・金融・保険の役割について関連付けて説明できる。	流通の仕組みやサプライチェーン、消費者対応の流通のあり方について理解し、物流・金融・保険の役割も簡単に説明できる。	流通の仕組みやサプライチェーン、消費者対応の流通のあり方について理解し、物流・金融・保険の役割も簡単に説明できない。		
評価項目4	流通における情報と通信の役割を理解し、複雑な流通情報システムの構築やICT社会を説明できる。	流通における情報と通信の役割を理解し、基礎的な流通情報システムの構築やICT社会を説明できる。	流通における情報と通信の役割を理解し、基礎的な流通情報システムの構築やICT社会を説明できない。		
評価項目5	経済の発展と新しいサービス産業と関連付けて、高度なベンチャービジネス時代の商品研究について説明できる。	経済の発展と新しいサービス産業と関連付けて、一般的なベンチャービジネス時代の商品研究について説明できる。	経済の発展と新しいサービス産業と関連付けて、一般的なベンチャービジネス時代の商品研究について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 産業経済の発展と消費生活について、我が国の産業の変化と消費生活の向上について学習する。 (2) 商品の成り立ち、特性、売上の成立要件、商品のソフト化、商品開発などについて学習する。 (3) 流通の仕組み、環境変化と流通、物流、金融、保険について学習する。 (4) 流通における情報と通信の役割、流通情報ネットワークシステム、情報・通信とコミュニケーションについて学習する。 (5) ビジネスの創造やベンチャービジネス、商品研究について学習する。				
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ流通情報工学科の専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・配布プリントなどを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.産業経済の発展と消費生活	1-(1) わが国の産業の変化を説明できる。	
		2週	1.産業経済の発展と消費生活	1-(2) 消費生活の変化を説明できる。	
		3週	2.商品	2-(1) 商品の成り立ちを説明できる。	
		4週	2.商品	2-(2) 商品の特性を説明できる。	
		5週	2.商品	2-(3) 商品売上の成立要件について理解ができる。	
		6週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(1) 商品のソフト化について説明できる。	
		7週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(2) 商品開発の基本的な考え方を説明できる。	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(3) 流通の仕組みと市場を説明できる。	
		10週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(4) 小売商と卸売商の違いを説明できる。	
		11週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(5) 社会環境変化と流通について説明できる。	
		12週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(6) 流通における物流の役割を説明できる。	
		13週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(7) 流通における輸送の役割を説明できる。	
		14週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(8) 流通における保管の役割を説明できる。	
		15週	3.商品の多様化と流通の仕組み	3-(9) 流通における金融と保険の役割を説明できる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		

後期	3rdQ	1週	4.流通における情報と通信	4-(1) 流通における情報と通信の役割を説明できる。
		2週	4.流通における情報と通信	4-(2) 情報化と流通について説明できる。
		3週	4.流通における情報と通信	4-(3) 情報とコンピュータシステムについて説明できる。
		4週	4.流通における情報と通信	4-(4) POSシステム、EOS、EDIについて説明できる。
		5週	4.流通における情報と通信	4-(5) SCMとECRについて説明できる。
		6週	4.流通における情報と通信	4-(6) 情報通信とコミュニケーションについて説明できる。
		7週	4.流通における情報と通信	4-(7) IT革命と流通について説明できる。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	5.新しいサービス産業	5-(1) 新しいサービス産業について説明できる。
		10週	5.新しいサービス産業	5-(2) 新しいサービス産業とビジネスについて説明できる。
		11週	5.新しいサービス産業	5-(3) ベンチャービジネスについて説明できる。
		12週	5.新しいサービス産業	5-(4) ベンチャービジネスの支援体制について説明できる。
		13週	5.新しいサービス産業	5-(5) 商品研究の情報の集め方について説明できる。
		14週	5.新しいサービス産業	5-(6) 商品研究を事例を用いて説明できる。
		15週	5.新しいサービス産業	5-(7)まとめ
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	0	10	0	0	60
専門的能力	30	10	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報演習
科目基礎情報					
科目番号	1924005	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	特になし (適宜、資料を配布します)				
担当教員	加藤 博明				
到達目標					
(1) コンピュータの基本構成が説明できる。 (2) パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。 (3) プログラムの基本制御構造が理解できる。 (4) データ・AI活用領域の広がりを理解する。 (5) 基数変換アルゴリズムを理解し、計算できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータの基本構成を具体例を挙げながら説明できる。	コンピュータの基本構成が説明できる。	コンピュータの基本構成が説明できない。		
評価項目2	パワーポイントを用いてスライドを作成し、効果的なプレゼンテーションやその評価ができる。	パワーポイントを用いてスライドを作成し、プレゼンテーションができる。	パワーポイントを用いてスライドの作成や、プレゼンテーションができない。		
評価項目3	プログラムの基本制御構造が理解でき、具体的に記述できる。	プログラムの基本制御構造が理解できる。	プログラムの基本制御構造が理解できない。		
評価項目4	データ・AI活用領域の広がりを理解し、その価値を説明できる。	データ・AI活用領域の広がりを理解できる。	データ・AI活用領域の広がりを理解できない。		
評価項目5	基数変換アルゴリズムが理解でき、変換プログラムを実装できる。	基数変換アルゴリズムを理解し、計算できる。	基数変換アルゴリズムの理解や計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	コンピュータサイエンス分野の基礎となるプログラミングと関連技術に関する基礎知識を習得する。				
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことばあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. コンピュータの基本構成	1-(1) コンピュータの基本構成が説明できる。	
		2週	1. コンピュータの基本構成	1-(2) タッチタイピングが習得できる。	
		3週	2. プレゼンテーション	2-(1) プレゼンテーションの必要性が説明ができる。	
		4週	2. プレゼンテーション	2-(2) パワーポイントを用いてスライドのデザインや編集ができる。	
		5週	3. 情報セキュリティ	3-(1) 著作権と引用の概要が説明できる。	
		6週	2. プレゼンテーション	2-(3) パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。	
		7週	2. プレゼンテーション	2-(4) プレゼンテーションの評価ができる。	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	3. 情報セキュリティ	3-(2) インターネットにおけるルール&マナーが説明できる。	
		10週	3. 情報セキュリティ	3-(3) 情報セキュリティ対策の必要性が説明できる。	
		11週	3. 情報セキュリティ	3-(4) 基本的な情報セキュリティ対策が実践できる。	
		12週	3. 情報セキュリティ	3-(5) 個人情報保護法やデータ倫理、AI社会原則が説明できる。	
		13週	4. プログラミング基礎	4-(1) プログラムとは何かが説明できる。	
		14週	4. プログラミング基礎	4-(2) エクセルによる基本プログラムが作成できる。	
		15週	4. プログラミング基礎	4-(3) C言語による基本プログラムが作成できる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	5. 基本制御構造	5-(1) 逐次処理を用いたプログラムが作成できる。	
		2週	5. 基本制御構造	5-(2) 分岐処理を用いたプログラムが作成できる。	
		3週	5. 基本制御構造	5-(3) 反復処理を用いたプログラムが作成できる。	
		4週	6. データリテラシー	6-(1) データの種類 (量的変数と質的変数) が説明できる。	
		5週	6. データリテラシー	6-(2) データの分布と代表値、その性質の違いが説明できる。	

4thQ	6週	6. データリテラシー	6-(3) データのばらつき（分散、標準偏差）が説明できる。
	7週	6. データリテラシー	6-(4) データの可視化方法とその特徴が説明できる。
	8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	9週	6. データリテラシー	6-(5) 基本統計処理のプログラムが作成できる。
	10週	7. 基数変換アルゴリズム	7-(1) 基数変換の基本アルゴリズムが説明できる。
	11週	7. 基数変換アルゴリズム	7-(2) 二進数から十進数への変換プログラムが作成できる。
	12週	7. 基数変換アルゴリズム	7-(3) 十進数から二進数への変換プログラムが作成できる。
	13週	8. モンテカルロシミュレーション	8-(1) シミュレーションの基本概念が説明できる。
	14週	8. モンテカルロシミュレーション	8-(2) エクセルによる疑似乱数の生成が説明できる。
	15週	8. モンテカルロシミュレーション	8-(3) モンテカルロシミュレーションのプログラムを作り、実行できる。
16週	後期末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	60	0	30	10	0	0	100
基礎的能力	60	0	30	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会人基礎力演習
科目基礎情報					
科目番号	1934001		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	中道 豪一, 岡山 正人				
到達目標					
(1)就職活動で使用する書類(履歴書など)の作成能力を身に付けていきます (2)基本的なビジネス文書の作成能力を身に付けていきます (3)基本的なビジネスマナーを身に付けていきます					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	何も見ることなく授業で練習した就職活動で使用する書類(履歴書など)を作成できる		授業で練習した就職活動で使用する書類(履歴書など)を作成できる		授業で練習した就職活動で使用する書類(履歴書など)を作成できない
評価項目2	何も見ることなく基本的なビジネス文書を作成できる		基本的なビジネス文書を作成できる		基本的なビジネス文書を作成できない
評価項目3	何も見ることなく基本的なビジネスマナーを実践できる		基本的なビジネスマナーを実践・説明できる		基本的なビジネスマナーを実践できない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業は実践的な知識やスキルを培うことを目的としています。授業の大きな柱となるのが「基本的なビジネス文書作成能力の育成」「ビジネス文書に付随する知識の習得」「基本的なビジネスマナーの習得」です。普段の学校生活では触れることのない内容も多いと思いますが一つ一つ身に付けていきましょう。				
授業の進め方・方法	授業は板書形式で進行させます。授業の形態は「レクチャー」を実施した後に「実践練習」を行い、その実践練習の結果をみて「総括」を行う流れが基本となります。またほぼ毎回課題(A3両面プリント1枚程度)を出します。				
注意点	1)講義は板書形式で進行させるのでノートやルーズリーフを準備しましょう。(※定期試験終了時に提出を求めることがあります) 2)プリントを頻繁に配布します。年度末まで保存しておきましょう。(※前期の内容が学年末試験に出題されることがあります) 3)授業中に学生の発言を求めることがありますが不必要な私語は厳禁とします。 4)コロナウイルスの感染状況により授業内容を一部変更することがあります。(※その際は必ず告知します) 5)提出物は成績において重要な要素となります。必ず提出しましょう。(※病欠等やむを得ない状況で提出が遅れた場合は減点しません) 6)定期試験(披見不可)は授業毎の復習を前提として作成しています。また試験前には試験対策の時間を設け復習のポイントを明示します。 【担当: 中道非常勤講師】				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス + 1 来年度作成する書類について	履歴書作成能力の養成 1-書式があることを知りそれに従い文書を作成する-	
		2週	1 来年度作成する書類について	履歴書作成能力の養成 2-自己分析の書き方を身に着ける-	
		3週	1 来年度作成する書類について	履歴書作成能力の養成 3-送付状・カバーレターの作成法を身に着ける-	
		4週	1 来年度作成する書類について	封書・葉書作成能力の養成-書き方や様々な送り方を知る-	
		5週	1 来年度作成する書類について	1~4週内容の総合練習-履歴書を書き送付状を付け封筒を作成し送る作業を定着させる-	
		6週	2 基本的なビジネス文書について	社交文書 1-文書の基本的体裁を身に着ける-	
		7週	2 基本的なビジネス文書について	社交文書 2-さまざまな文書に触れる-	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	2 基本的なビジネス文書について	社交文書 3-さまざまな文書に触れる-	
		10週	2 基本的なビジネス文書について	社交文書 4-さまざまな文書に触れる-	
		11週	3 基本的なビジネスマナーについて	席次について1-上座と下座の基本概念を身に着ける-	
		12週	3 基本的なビジネスマナーについて	席次について2-様々な場所で異なる上座と下座のルールを身に着ける-	
		13週	3 基本的なビジネスマナーについて	のし・祝儀袋の作成法を身に着ける	
		14週	3 基本的なビジネスマナーについて	様々なシーンにおけるのし・祝儀袋の使い分けをマスターする	
		15週	3 基本的なビジネスマナーについて	6~15週内容の総合練習	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	4 基本的なビジネス文書について II	社内文書の書式を身に着ける	
		2週	4 基本的なビジネス文書について II	社外文書の書式を身に着ける	
		3週	4 基本的なビジネス文書について II	様々な社外文書の実例に触れる	

4thQ	4週	4 基本的なビジネス文書についてⅡ	様々な郵送方法を学び、大崎上島における具体的かつ効果的な投函手順を身につける
	5週	4 基本的なビジネス文書についてⅡ	総合練習-社交文書・社内文書・社外文書-
	6週	5 基本的なビジネスマナーについてⅡ	葬祭関連の基礎知識を身につける
	7週	5 基本的なビジネスマナーについてⅡ	葬祭関連の具体的な立ち居振る舞いを身につける
	8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	9週	5 基本的なビジネスマナーについてⅡ	接遇関連の基礎知識を身につける—お客様を案内する際の基本ルールをおさえる（玄関から室内まで）—
	10週	5 基本的なビジネスマナーについてⅡ	接遇関連の基礎知識を身につける—お客様を案内する際の基本ルールをおさえる（室内）—
	11週	5 基本的なビジネスマナーについてⅡ	接遇関連の基礎知識を身につける—言葉遣いを中心に—
	12週	6 基本的なビジネス文書についてⅢ	実務系文書の基礎知識と作成方法を身につける—領収書の意味と書式—
	13週	6 基本的なビジネス文書についてⅢ	実務系文書の基礎知識と作成方法を身につける—様々な領収書の形式に触れる—
	14週	6 基本的なビジネス文書についてⅢ	実務系文書の基礎知識と作成方法を身につける—印鑑の意味や使い方について—
	15週	6 基本的なビジネス文書についてⅢ	総合練習
	16週	後期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	20	30	0	100
基礎的能力	30	0	0	20	30	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報基礎 (情報)
科目基礎情報					
科目番号	1934002		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ITパスポート試験 対策テキスト 令和4-5年度版 (FOM出版)				
担当教員	寺下 貴展				
到達目標					
(1)情報処理の基礎知識に関して説明できる。 (2)コンピュータシステムに関して説明できる。 (3)ネットワーク、セキュリティに関して説明できる。 (4)データベースに関する知識および基本的なデータベースの技術を説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本的な計算知識やプログラミングの基礎について理解し、発展的な問題を解くことができる。		基本的な計算知識やプログラミングの基礎について理解している。		基本的な計算知識やプログラミングの基礎について理解していない。
評価項目2	CPUや5大装置、OSなどについて、機能や特徴だけでなく、それぞれの関係を理解している。		CPUや5大装置、OSなどについて、機能や特徴を理解し、説明できる。		OSやCPU、5大装置などについて、機能や特徴を理解していない。
評価項目3	LANや通信プロトコル、ネットワーク機器についてメリット・デメリットをまとめることができ、改善点を指摘できる。		LANや通信プロトコル、ネットワーク機器について特徴を理解している。		LANや通信プロトコル、ネットワーク機器について理解していない。
評価項目4	データベースに関する発展的な知識を有している。また、SQLを応用することができる。		データベースに関する基礎的な知識および基本的なSQL文について理解している。		データベースに関する基礎的な知識および基本的なSQL文について理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ITパスポート試験テクノロジ分野の知識を習得することで、社会に出る際に備えておく必要がある情報技術に関する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。また、情報技術を活用するための素養を養う。				
授業の進め方・方法	講義と演習を組み合わせながら進める。 授業後半には小テストを実施する。 小テストおよび定期試験はITパスポート試験の過去問を扱う。				
注意点	(1)学習内容定着のために、教科書を参考に予習、復習をしておくこと。 (2)提出を指示した課題は、期限内に必ず提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	基礎理論	数と表現について理解できる。	
		2週	基礎理論	基数変換を理解し、2進数の演算ができる。	
		3週	基礎理論	集合、確率、統計に関する問題が解ける。	
		4週	基礎理論	ビット、バイト、情報量の考え方を理解し、情報量を求めることができる。AIとディープラーニングに関して説明できる。	
		5週	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムとデータ構造の関係が理解できる。	
		6週	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムとデータ構造の関係が理解できる。	
		7週	アルゴリズムとプログラミング	プログラミングの役割について理解できる。	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	コンピュータ構成要素	コンピュータの基本構成と役割について理解できる。	
		10週	コンピュータ構成要素	プロセッサの性能と基本的な仕組みが理解できる。	
		11週	コンピュータ構成要素	メモリの種類と特徴が理解できる。	
		12週	コンピュータ構成要素	記録媒体の種類と特徴を理解できる。	
		13週	コンピュータ構成要素	入出力インターフェースについて理解できる。	
		14週	システム構成要素	クライアントサーバシステム、Webシステムについて理解できる。	
		15週	システム構成要素	システムの性能・信頼性・経済性について理解できる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	ソフトウェア	OSの必要性、機能、種類、特徴を理解できる。	
		2週	ソフトウェア	ファイル管理、バックアップ機能について理解できる。	
		3週	ソフトウェア	オフィスツールについて理解し、活用できる。	
		4週	ソフトウェア	ブラウザ、メールソフト、OSSについて理解し、活用できる。	

4thQ	5週	ハードウェア	CPU、記憶装置、5大装置について理解し、説明できる。
	6週	ヒューマンインターフェース	GUI、ユニバーサルデザインについて理解できる。
	7週	マルチメディア	静止画像、動画の圧縮技術について理解できる。
	8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	9週	データベース	データベース管理システムについて理解できる。
	10週	データベース	正規化、データ操作について理解できる。
	11週	データベース	基本的なSQLを理解し、SQLの応用問題が解ける。
	12週	ネットワーク	LAN、WAN、通信プロトコルについて理解できる。
	13週	ネットワーク	ネットワーク機器、ルーティングが理解できる。
	14週	セキュリティ	マルウェアやセキュリティ対策について理解できる。
	15週	セキュリティ	公開鍵、秘密鍵、暗号化技術について理解できる。
	16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト・課題	態度	その他	合計
総合評価割合	20	60	20	0	100
基礎的能力	0	0	20	0	20
専門的能力	20	60	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	知的財産基礎
科目基礎情報					
科目番号	1934004	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	ポケット六法 (最新版)				
担当教員	金子 春生				
到達目標					
(1)法律・法解釈とは何かを理解する。 (2)法学の基礎について理解する。 (3)知的財産制度を理解する上で必要な憲法について理解する。 (4)情報法の基礎を理解する。 (5)知的財産法の基礎を理解する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	法学の基礎概念について、法律、法的三段論法、裁判などを整理し、示すことができる。	法学の基礎概念を整理し、示すことができる。	法学の基礎概念を整理し、示すことができない。		
評価項目2	著作権法の基礎概念について、著作物、期間などを整理し、示すことができる。	著作権法の基礎概念を整理し、示すことができる。	著作権法の基礎概念を整理し、示すことができない。		
評価項目3	特許法の基礎概念について、申請の流れ、期間などを整理し、示すことができる。	特許法の基礎概念を整理し、示すことができる。	特許法の基礎概念を整理し、示すことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会に出て働くために、必要な法的素養の基礎を身に付けるため、法学の基礎から始め、知的財産法の基礎などについて講義する。				
授業の進め方・方法	授業の冒頭では、極力直近のニュースを取り上げ、社会に目を向けることを意識させるようにする。さらに、授業1回分の時間を使い「日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナー」を開催する場合がある。本セミナーは実務家である弁理士の先生をお呼びして、特許実務についての講演をしていただくものである。				
注意点	教科書としてその時点での最新の六法を購入してもらう。この六法は、4年次、5年次の授業でも使用する。また、1年次の政治経済や専門基礎 (流通) の教科書も適宜使用する場合もある。特に教科書は指定しないので授業を大切にしてください。授業中私からの発問に対する応答の態様も重要評価対象です。 可能な範囲でケースメソッド方式による授業展開を図りたい。毎時間、その日の授業についてのコメントを専用のシートに書いて、提出してもらう。書かれていない項目などがあれば、課題点から減点する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1.法律と法解釈	1-(1)なぜ、社会にはルールがあるのか、なぜルールが必要とされるのかを説明できる。	
		2週	1.法律と法解釈	1-(2)法律・法解釈が何かを説明できる。	
		3週	1.法律と法解釈	1-(3)法律にはどのようなものがあり、どのように分類できるかを説明できる。	
		4週	1.法律と法解釈	1-(4)法解釈の方法について説明できる。	
		5週	2.法学の基礎	2-(1)三段論法を理解し、使えるようになる。	
		6週	2.法学の基礎	2-(2)実際の問題をもとに、適用される法律および条文を指摘し、解釈できる。	
		7週	2.法学の基礎	2-(3)社会における法的問題を取り上げ、説明できるようになる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(1)知的財産制度の基本的ルールの根本となる憲法とは何かを理解し、説明できる。	
		10週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(2)知的財産制度を理解する上で必要な憲法史について理解し、説明できる。	
		11週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(3)知的財産制度を理解する上で必要な立憲主義について理解し、説明できる。	
		12週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(4)知的財産制度を理解する上で必要な法の支配について理解し、説明できる。	
		13週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(5)知的財産制度を理解する上で必要な国民主権等を理解し、説明できる。	
		14週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(6)知的財産制度を理解する上で必要な平和主義と天皇制を理解し、説明できる。	
		15週	3.知的財産と憲法 (総論)	3-(7)知的財産制度を理解する上で必要な憲法の基本原理を理解し、説明できる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		

後期	3rdQ	1週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(1)知的財産制度を理解する上で必要な統治システムの基礎を理解している。
		2週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(2)知的財産制度を理解する上で必要な権力分立と国会の役割を理解し、説明できる。
		3週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(3)知的財産制度を理解する上で必要な内閣の役割を憲法を理解し、説明できる。
		4週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(4)知的財産制度を理解する上で必要な違憲審査制、憲法改正等を理解し、説明できる。
		5週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(5)知的財産制度を理解する上で必要な裁判所を憲法の条文をもとに説明できる。
		6週	4.知的財産と憲法（統治システム）	4-(6)知的財産制度を理解する上で必要な違憲審査制、憲法改正等を憲法の条文をもとに説明できる。
		7週	5.知的財産と情報法	5.知的財産制度を理解する上で必要な情報法の基礎概念を理解し、説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(1)知的財産制度を理解する上で必要な基本的人権を挙げることができる。
		10週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(2)知的財産制度を理解する上で必要な包括的基本権、平等原則について理解し、説明できる。
		11週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(3)知的財産制度を理解する上で必要な精神的自由権について理解し、説明できる。
		12週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(4)知的財産制度を理解する上で必要な経済的自由権について理解し、説明できる。
		13週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(5)知的財産制度を理解する上で必要な社会権について理解し、説明できる。
		14週	6.知的財産と憲法（基本的人権の保障）	6-(6)知的財産制度を理解する上で必要な基本的人権に関わる重要判例における問題点を抽出でき、判決内容を理解する。
		15週	7.知的財産と情報法	7.知的財産制度を理解する上で必要な情報法の基礎概念を理解し、説明できる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	統計学
科目基礎情報					
科目番号	1934005	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定しない。適宜、統計学の基本的な教科書を参考にしてほしい。				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
(1)基本統計量について計算できる。 (2)クロス集計表について説明できる。 (3)単回帰分析について簡単に説明できる。 (4)統計的推定や検定の必要性について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基本統計量について計算でき、その結果の意味を説明できる。	基本統計量について計算できる。	基本統計量について計算できない。		
評価項目2	クロス集計表について計算でき、その結果について簡単に考察できる。	クロス集計表について計算できる。	クロス集計表について計算できない。		
評価項目3	単回帰分析について、どのようなものか簡単に説明でき、単回帰式や相関係数、寄与率などが計算できるとともに、その結果について簡単な考察ができる。	単回帰分析について、どのようなものか簡単に説明でき、単回帰式や相関係数、寄与率などが計算できる。	単回帰式が計算できない。		
評価項目4	母集団および標本の概念が理解でき、統計的推定や検定の必要性について簡単に説明ができる。	母集団、標本の概念が簡単に説明できる。	母集団、標本の概念が理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近年、情報処理技術の進展により大量のデータを同時に分析できるようになり、企業の経営やマネジメントにとってデータ解析は必要不可欠な技術となってきた。ここではデータ解析の基礎として統計学の基本的な事項を学ぶ。				
授業の進め方・方法	基本統計量や度数分布表、単純集計やクロス集計、単回帰分析を学ぶとともに、正規分布を使った区間推定や検定を通して、統計的推定および検定の考え方を理解する。講義を中心に授業を進める。年に10回程度演習を行いそのレポートを提出してもらう。				
注意点	Σ記号の計算や一次関数、不等式の基礎的な計算などを復習しておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	データとデータ解析 1	データ解析とはどのようなものかを説明できる。また、データの種類(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比尺度)どのようなものがあるのかを説明できる。	
		2週	データとデータ解析 2	様々なグラフについてその特徴を説明できる。	
		3週	データの整理と基本統計量 1	度数分布表とヒストグラムについて理解し、少数データをもとにそれぞれを求めることができる。	
		4週	データの整理と基本統計量 2	単純集計とクロス集計について理解し、少数データからそれぞれを求めることができる。	
		5週	データの整理と基本統計量 3	基本統計量のうち代表値(平均、モード、メディアン)について理解し、少数データからそれぞれを求めることができる。	
		6週	データの整理と基本統計量 4	基本統計量の内特に散布度(範囲、分散、標準偏差)について理解し、少数データからそれぞれを求めることができる。	
		7週	データの整理と基本統計量 5	度数分布表や基本統計量、クロス集計表などの演習を行い、それぞれを求めることができる。	
		8週	データの整理と基本統計量 6	度数分布表や基本統計量、クロス集計表などの演習を行い、それぞれを結果を説明できる。	
	2ndQ	9週	相関係数と単回帰分析 1	散布図と相関係数について理解し、それぞれを求めることができる。	
		10週	相関係数と単回帰分析 2	散布図と相関係数について演習を行い、それぞれを結果を説明できる。	
		11週	相関係数と単回帰分析 3	単回帰分析がどのようなものかを理解する。	
		12週	相関係数と単回帰分析 3	最小二乗法による単回帰分析の求め方について理解し、少数データから分析を行える。	
		13週	相関係数と単回帰分析 4	相関係数および寄与率による単回帰分析の評価できる。	
		14週	相関係数と単回帰分析 5	単回帰分析について演習を行い、得られた結果を説明できる。	
		15週	相関係数と単回帰分析 6	単回帰分析について演習を行い、得られた結果を説明できる。	
		16週	予備		

後期	3rdQ	1週	記述統計と推測統計	記述統計との比較で推測統計の必要性について説明できる。また、母集団と標本について説明できる。
		2週	確率の概念 1	独立試行の確率、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率の基礎を理解し、簡単な場合の確率を求めることができる。
		3週	確率の概念 2	条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象の確率を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。
		4週	正規分布と各種確率分布	正規分布や二項分布などがどのようなものかを理解する。
		5週	標準正規分布と正規分布表 1	標準正規分布と正規分布表どのようなものかを説明できる。
		6週	標準正規分布と正規分布表 2	正規分布表の使うことができる。
		7週	正規分布の性質と正規分布表 1	一般的な正規分布の性質を理解し、それをもとに正規分布表を利用し様々な計算ができる。
		8週	正規分布の性質と正規分布表 2	一般的な正規分布の確率の計算演習を通し、結果を説明できる。
	4thQ	9週	統計的推定とは	統計的推定の考え方について説明できる。
		10週	平均値の区間推定 1	正規分布を使った平均値の区間推定を行うことができる。
		11週	平均値の区間推定 2	正規分布を使った平均値の区間推定について演習を行い、その結果を説明できる。
		12週	統計的検定とは	統計的検定の考え方を説明できる。
		13週	平均値の検定 1	正規分布を使った平均値の検定を行うことができる。
		14週	平均値の検定 2	正規分布を使った平均値の検定について演習を行い、結果を説明できる。
		15週	様々な統計的な手法	様々な統計的な手法についてどのようなものがあるか説明できる。
		16週		

評価割合

	試験	課題演習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	財務会計
科目基礎情報					
科目番号	1934006		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「さくっと受かる、日商簿記3級」テキスト、トレーニング (ネットスクール)				
担当教員	風呂本 武典				
到達目標					
(1) 複式簿記のしくみを理解する (2) 精算表や財務諸表の作成ができる (3) 日商簿記3級検定に合格できる (後期簿記演習を含む)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	仕訳、元帳転記、試算表作成までができる		勘定科目の8要素の関係性を理解し仕訳ができる		仕訳ができない借方貸方がわからない
評価項目2	精算表や財務諸表の作成ができる		決算仕訳や損益計算、帳簿の締め切りなどは理解できている		決算仕訳や帳簿締切が理解できない
評価項目3	日商簿記3級検定に合格できる		教科書を見ながら時間を掛ければ検定試験の問題を半分以上は解ける		教科書を見ても検定試験問題を殆ど解けない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	会計学の基礎知識として商業簿記を理解する。日商簿記3級程度の複式簿記を記帳できるようにするがまずは最低限試算表の作成までは理解する。				
授業の進め方・方法	電卓があれば便利でよい。この授業は基本的に演習であるから必ず自分で課題プリントを解くこと。日々講義だけでなく自宅で問題集を解くなどの予習復習をしなければ簿記学習は聞いただけではできない。簿記スクール等のネット配信教室など簿記の資格取得学習には便利な動画配信も多いので、自習にはそれらをぜひ活用されたい。もし3級の資格が取得できれば2級を目指してもらいたい。演習であるから態度の著しく悪い者、特に自分で授業中に問題を解かない者などは評価低い。さらに演習中許可無く他のことをすれば減点とする。評価は試験を基本とする。なお授業態度その他についてはまじめに取り組んでいる場合に限り成績不振等の場合に努力評価として加点する場合もある。				
注意点	前期集中講義で後期集中の簿記演習につながる。前期末で試算表の作成ができれば基本的な簿記知識は理解できているので、後は決算に伴う部分や検定試験対策は自学自習でも可能であろう。(情報コースの学生は、後期は情報分野の演習になるため特に前期末までに簿記の基本知識をマスターされたい。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	複式簿記のしくみ 全体の講義	取引の仕訳、元帳転記ができる	
		2週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	損益計算書と貸借対照表を理解する	
		3週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	分記法による商品売買を理解する	
		4週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	取引—仕訳—元帳転記という一連の流れを説明することができる	
		5週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	決算の意味を理解する	
		6週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	英米式6桁精算表ができる	
		7週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	4級程度の簿記演習問題が解けるようになる	
		8週	勘定科目の理解全体の講義	各勘定科目の仕訳の特徴や処理方法を理解する	
	2ndQ	9週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	三分法による商品売買を理解する	
		10週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	分記法と三分法の違いが説明できる	
		11週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	現金勘定を理解する	
		12週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	当座預金勘定を理解する	
		13週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	売買目的有価証券の処理を理解する	
		14週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	固定資産について理解する	
		15週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	定額法による減価償却の計算ができる	
		16週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	商品と商品以外の売買を理解する	
後期	3rdQ	1週	手形の処理、債権債務の処理、試算表の作成全体の講義	複式簿記の特徴である信用取引を理解する	

4thQ	2週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	債権債務に関わる仕訳について理解する
	3週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	売掛金と買掛金を理解する
	4週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	約束手形について理解する
	5週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	手形の処理ができるようになる。
	6週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	消耗品についての処理ができる
	7週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	試算表が理解できる
	8週	模擬試験演習、個別の勘定科目処理の応用 全体の講義	試算表の作成まで一連の作業が理解できる
	9週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	貸付金借入金を理解する
	10週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	仮払金と借受金を理解する
	11週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	立替金と預り金を理解する
	12週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	商品券と他店商品券を理解する
	13週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	資本金と税金を理解する
	14週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	現金過不足を理解する
	15週	説明の後、プリントによる自習と個別指導、毎時間の課題提出と採点返却指導	伝票と補助簿を理解する
	16週	模擬試験問題	3級程度の簿記演習問題が解けるようになる

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	10	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	プログラミング基礎
科目基礎情報					
科目番号	1934007		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	はじめてのUNO R3速習キット				
担当教員	岩切 裕哉				
到達目標					
(1)コンピュータの仕組みを理解する。 (2)基本的なC言語のプログラムが作成できる。 (3)フローチャートがかけられる。 (4)プログラムの誤りを発見し、修正できる。 (5)タッチタイピングできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。プログラムの処理手順を説明できる。	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。	C言語のプログラムの基本的な作り方が理解していない。		
評価項目2	コンピュータの構成を理解できる。簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができ、プログラムの動作を説明できる。	コンピュータの構成を理解できる。簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。	コンピュータの構成を理解していない。簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができない。		
評価項目3	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができ、動作について説明できる。	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、C言語を利用して、Arduinoマイコンボードで動作するプログラムを作成し、コンピュータが動作する仕組みを学ぶ。ハードウェア、ソフトウェアを通じたシステム開発の基礎学ぶ。ハードウェアの動作を考え、プログラムを作成することで、論理思考の修得を目指す。				
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。教科書を参考に、予習復習を必ずすること。演習課題をレポートとして提出してもらう。課題は必ず提出すること。				
注意点	不明な点があれば、Blackboardの掲示板、Teamsのチャット/通話、メールで質問してください。 Teams ID・メール：iwakiri@hiroshima.kosen-ac.jp 質問の仕方： 具体的に質問するようにしてください。スクリーンショットやプログラムを添付するのも解決の助けになります。 ×「分かりません」 ◎「～のように考えて、プログラムを～のように作ってみたけれど、～のエラーが出てしまう」 ◎「～のように考えて、プログラムを～のように作ってみたけれど、結果が～となってしまった」				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス Arduinoの基礎	Arduinoの仕様や構造を理解できる。	
		2週	LED	簡単な回路を理解でき、LEDを光らせるプログラムが作成できる。	
		3週	LED	簡単な回路を理解でき、LEDを光らせるプログラムが作成できる。	
		4週	スイッチ	スイッチを接続し、動作させることができる。	
		5週	スイッチ	スイッチを接続し、動作させることができる。	
		6週	PWM制御	マイコンボードにLEDを接続し、PWM制御で光り方を変えることができる。	
		7週	PWM制御	マイコンボードにLEDを接続し、PWM制御で光り方を変えることができる。	
		8週	ブザー	ブザーを接続し、音を鳴らすことができる。	
	2ndQ	9週	ブザー	ブザーを接続し、音を鳴らすことができる。	
		10週	光センサ	光センサの入力に応じて動作させることができる。	
		11週	フルカラーLED	PWM制御で光り方を変える。	
		12週	フルカラーLED	ユーザ関数を用いたプログラムを作ることができる。	
		13週	静電容量センサ	センサの入力に応じて動作させることができる。	
		14週	静電容量センサ	センサの入力に応じて動作させることができる。	
		15週	温湿度センサ	センサの入力に応じて動作させることができる。	
		16週	前期末試験答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	モータ	モータを駆動させる方法を理解できる。	

		2週	RTC	時間によって動作させるプログラムを作ることができる。
		3週	7セグメントLED	簡単な回路を動作させるプログラムを作ることができる。
		4週	7セグメントLED	簡単な回路を動作させるプログラムを作ることができる。
		5週	NFC	NFCの基礎を理解できる。
		6週	NFC	NFCを使ったアプリケーションを作成できる。
		7週	NFC	NFCを使ったアプリケーションを作成できる。
		8週	NFC	NFCを使ったアプリケーションを作成できる。
		4thQ	9週	マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発
	10週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。
	11週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。
	12週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。
	13週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。
	14週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	LEDやスイッチなどを組み合わせ、簡単な回路をマイコンボードに接続し、動作させるプログラムを作ることができる。
	15週		マイコンボードで動作するオリジナルのプログラムの開発	プレゼンテーションできる。
	16週		学年末試験答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	10	40	0	0	0	100
基礎的能力	50	10	40	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	プログラミング基礎演習
科目基礎情報					
科目番号	1934009		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	広島県サンドボックス事業(ひろしまQuest) eラーニングサイト(https://cloud.signate.jp/)				
担当教員	岸 拓真, 藤原 宗幸				
到達目標					
(1)基本的なPythonプログラミングができる。 (2)理解しやすいプログラムが書ける。 (3)フローチャートが書ける。 (4)プログラムの誤りを発見し、修正できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	Python言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。プログラムの処理手順を説明できる。	Python言語のプログラムの基本的な作り方が理解できる。	Python言語のプログラムの基本的な作り方を理解していない。		
	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタ、構造体について理解し、自由にプログラムを作ることができる。	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタ、構造体について理解し、簡単なプログラムを作ることができる。	配列、文字、関数、プリプロセッサ、ポインタ、構造体について理解していない。		
	課題解決のためのフローチャートを作成できる。また、フローチャートをもとにプログラムを作成できる。自分の作成したプログラムの改善点を指摘することができる。	フローチャートに用いられる記号の意味を理解し、適切に組み合わせることができる。与えられたプログラムの誤りを発見でき、修正できる。	フローチャート記号の意味が理解できない、または、適切に組み合わせることができない。プログラムの誤りを発見できない、または、誤りを修正できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業ではプログラミング言語としてPython言語を学ぶ。プログラミングの基本知識の習得を目指す。また、与えられたPython言語プログラムを読解する能力を身につける。例題を丁寧に解説し、多くの問題の解き方を考えることで論理思考の習得を目指す。				
授業の進め方・方法	出題した課題を解決するPython言語プログラムを作成し、そのプログラムをレポートにまとめるという演習を中心に授業を進める。また、授業中に小テストを実施する場合がある。				
注意点	(1)今後学ぶプログラミング関連科目の基礎となる科目であるため、学習内容を確実に身につける必要がある。 (2)学習内容定着のために、教科書を参考に予習、復習をしておくこと。 (3)提出を指示した課題およびレポートは必ず提出すること。 (4)学習内容についてわからないことがあれば、授業時間内、時間外にかかわらず積極的に質問すること。 (5)Python言語の基礎については、プログラミング基礎と連携して授業を進める。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction プログラミング演習(1)	・ Pythonというプログラミング言語の概要についての紹介 ・ Pythonの基礎の基礎である四則演算(足し算・引き算・掛け算・割り算)や、計算結果などを出力する方法を学び、取り扱えるようになる	
		2週	プログラミング演習(1)	・ 変数とデータ型について学び、取り扱えるようになる	
		3週	プログラミング演習(1)	・ 文字列の操作について学び、取り扱えるようになる	
		4週	プログラミング演習(1)	・ データ構造について学び、取り扱えるようになる ・ リストの操作方法を学ぶ	
		5週	プログラミング演習(1)	・ 論理演算と条件分岐について学び、取り扱えるようになる	
		6週	プログラミング演習(1)	・ 反復処理(for/while)について学び、取り扱えるようになる ・ 内包表記についての記述方法を学び、取り扱えるようになる	
		7週	プログラミング演習(1)	・ 自作関数の作り方について学び、取り扱えるようになる ・ 整備されたライブラリを使いこなし効率的にプログラミングすることができるようになる	
		8週	プログラミング演習(1)	・ ファイルの入出力について学び、取り扱えるようになる	
	4thQ	9週	プログラミング演習(2)	・ データ分析の際の用いるライブラリpandasについて学び、取り扱えるようになる	
		10週	プログラミング演習(2)	・ pandasを利用したデータ可視化方法について学び、取り扱えるようになる	
		11週	プログラミング演習(3)	・ 現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・ 実運用可能なモデル作成を目指す	

		12週	プログラミング演習(3)	・現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・実運用可能なモデル作成を目指す
		13週	プログラミング演習(3)	・現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・実運用可能なモデル作成を目指す
		14週	プログラミング演習(3)	・現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・実運用可能なモデル作成を目指す
		15週	プログラミング演習(3)	・現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・実運用可能なモデル作成を目指す
		16週	課題に対する発表	・現在習ったことをベースに実データに近いものでモデリングをしていく ・実運用可能なモデル作成を目指す

評価割合

	ポートフォリオ	レポート・課題	発表等	その他			合計
総合評価割合	50	30	10	10	0	0	100
基礎的能力	15	10	0	0	0	0	25
専門的能力	35	10	0	0	0	0	45
分野横断的能力	0	10	10	10	0	0	30

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物流概論
科目基礎情報					
科目番号	1934011		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は指定しない。				
担当教員	寺下 貴展				
到達目標					
(1)物流の基本的機能である輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報の概念を説明できる。 (2)物流に関する基礎的な用語が理解できている。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報について、その現状や課題を含めて説明できる。		物流における6つの機能について簡単に説明できる。		物流における6つの機能について説明できない
評価項目2	物流の基礎的な用語を物流の現状に関連付けて説明できる。		物流に関する基礎的な用語が説明できる。		物流に関する基礎的な用語が説明できない。
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物流とはどのようなものであるかを学び、基本的な用語について理解する。また、現在の物流の実態や課題についても知る。				
授業の進め方・方法	物流の基本的機能である輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報の概念を理解し、その機能、実態、課題等を学び、他の物流系科目を履修する上で必要な基礎知識を身につける。講義を中心に授業を進める。また、夏休みの課題として地域のコンビニエンスストアの実態調査をしてもらい、コンビニエンスストアの物流やその特徴を知ることによって現代の物流の現状や課題について学ぶ。				
注意点	教科書を指定していないため、授業中、板書したことや、話の中で重要と思われることはメモをとるなど、ノートをしっかり取るように心がけること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	物の流れと流通1	生産から消費までの物の流れについて概要を説明できる。	
		2週	物の流れと流通2	流通とは何かを理解し、流通の中での物流の位置づけについて簡単に説明できる。	
		3週	物流の定義とその機能 1	物流の定義と役割を簡単に説明できる。	
		4週	物流の定義とその機能 2	物流の機能のひとつである輸送について簡単に説明できる。	
		5週	物流の定義とその機能 3	物流の機能のひとつである保管について簡単に説明できる。	
		6週	物流の定義とその機能 4	物流の機能のひとつである荷役について簡単に説明できる。	
		7週	物流の定義とその機能 5	物流の機能のひとつである包装について簡単に説明できる。	
		8週	物流の定義とその機能 6	物流の機能のひとつである流通加工について簡単に説明できる。	
	2ndQ	9週	物流の定義とその機能 7	物流の機能のひとつである情報について簡単に説明できる。	
		10週	様々な物流の実態 1	コンビニエンス・ストアなどの小売業を事例に物流の実態を簡単に説明できる。	
		11週	様々な物流の実態 2	メーカーを中心とした物流を事例に物流の実態を簡単に説明できる。	
		12週	物流サービスとコスト 1	物流サービスと何かを簡単に説明できる。	
		13週	物流サービスとコスト 2	物流コストの構造の概要を説明できる。	
		14週	物流サービスとコスト 3	物流サービスとコストに関連を簡単に説明できる。	
		15週	物流サービスとコスト 4	物流コストの把握方法の一つとして活動基準原価計算についてその考え方を説明できる。	
		16週	予備		
後期	3rdQ	1週	物流センター 1	物流センターの役割についてその概要を説明できる。	
		2週	物流センター 2	一般的な物流センターにおける作業手順について簡単に説明できる。	
		3週	物流センター 3	物流センター内にある一般的な物流機器について簡単に説明できる。	
		4週	物流センター 4	物流センターの種類（ターミナル、配送センター、倉庫）について説明できる。	
		5週	物流センター 5	物流センターの種類（加工センター、流通センター）について説明できる。	

4thQ	6週	物流システム 1	物流システムの必要性について簡単に説明できる。
	7週	物流システム 2	物流システムの一般的な構築手順を説明できる。
	8週	物流管理 1	物流管理とはどのようなものかを簡単に説明できる。
	9週	物流管理 2	在庫管理とは何か、その考え方についてを説明できる。
	10週	物流管理 3	様々な在庫管理手法について簡単に説明できる。
	11週	物流管理 4	作業管理について概要を説明できる。
	12週	物流の課題と新たな流れ 1	我が国の物流の課題についてその概要を説明できる。
	13週	物流の課題と新たな流れ 2	物流と環境問題について説明できる。
	14週	物流の課題と新たな流れ 3	ロジスティクスとはどのようなものかを簡単に説明できる。
	15週	物流の課題と新たな流れ 4	QR、ECR、SCMについて簡単に説明できる。
	16週	予備	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	簿記演習		
科目基礎情報							
科目番号	1934012	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	流通情報工学科	対象学年	3				
開設期	後期	週時間数	4				
教科書/教材	「さくっと受かる、日商簿記3級」テキスト、トレーニング (ネットスクール)						
担当教員	風呂本 武典						
到達目標							
会計学の基礎知識として商業簿記を理解する。 日商簿記3級程度の複式簿記を記帳できるようになる 日商簿記3級検定試験に合格する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	仕訳、元帳転記、試算表作成までができる	勘定科目の8要素の関係を理解し仕訳ができる	仕訳ができない。借方貸方がわからない				
評価項目2	精算表や財務諸表の作成ができる	決算仕訳や損益計算、帳簿の締め切りなどは理解できている	決算仕訳や帳簿締切が理解できない				
評価項目3	日商簿記3級検定に合格できる	教科書を見ながら時間を掛ければ検定試験の問題を半分以上は解ける	教科書を見ても検定試験問題を殆ど解けない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1) 複式簿記のしくみを理解する (前期中に習得) (2) 精算表や財務諸表の作成ができる (3) 日商簿記3級検定に合格できる						
授業の進め方・方法	演習形式で進めるので配布したプリントや問題集を基本的に自力で説くことで簿記を身につけたい。 簿記の基礎知識は前期の財務会計で習得し後期は各種帳簿と決算等の学習を行い実践問題を解くことで検定合格をめざす。 3級に合格した場合は引き続き2級を目指して学習されたい。 自学自習にネット上で配信される簿記スクール等の番組も多めに活用されたい。						
注意点	自分で問題に取り組み実力をつけること。前期同様に、演習であるから課題を自学自習すること。演習態度の悪い者、特に自分で問題を解かない場合などは評価点低い。さらに授業中に許可なくほかのことするなどした場合には減点する。評価は試験が基本であるが真面目に演習に取り組んでいて成績不振の場合には演習態度その他で若干加点する場合もある。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	決算手続き、補助簿の記帳、伝票全体についての講義	試算表の作成ができる作成問題が解ける			
		2週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	決算手続きを理解する			
		3週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	補助簿の作成と締切ができる			
		4週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	伝票会計の仕訳を理解する			
		5週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	資本金と税金について理解する			
		6週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	訂正仕訳ができる			
		7週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	消耗品、有価証券、固定資産の期末処理ができる			
		8週	精算表の作成、検定模擬試験全体についての講義	8桁精算表を理解する			
	4thQ	9週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	財務諸表を理解できる			
		10週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	売上原価の算定ができる			
		11週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	貸し倒れ引当金の計算と処理ができる			
		12週	説明の後、プリントによる演習、学生相互の共同学習によるアクティブラーニング、個別指導等	見越しと繰り延べの処理ができる			
		13週	模擬試験問題に挑戦	8桁精算表を作成できる			
		14週	模擬試験問題に挑戦	推定精算表を解くことができる			
		15週	模擬試験問題に挑戦	財務諸表を作成できる			
		16週	模擬試験問題に挑戦	3級検定模擬試験を時間内に解けるようになる			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	50	0	0	10	0	10	70

専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	特別学修
科目基礎情報					
科目番号	0020	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	なし				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	特別学修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できる。	特別学修の目標と取り組むにあたっての心構えについて概ね認識できる。	特別学修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できていない。		
評価項目2	特別学修に使用する機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に特別研修を実施することができる。	特別学修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができる。	特別学修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができない。		
評価項目3	特別学修の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。	特別学修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができる。	特別学修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができない。		
評価項目4	特別学修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析し、様々な視点から成果を考察することができる。	特別学修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析することができる。	特別学修の基礎研究を実施して得られた成果を分析することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	企業におけるインターンシップ、海外語学研修や各種地域貢献を実施し、実社会での活動、語学や異文化、人前で講義することを実践することにより社会や産業の状況を把握するとともに、これまでに主として座学で学んだ理論あるいは実験で学んだ事柄が、実際にどのように応用されているかを実務を通して理解する。また、実社会でのグローバル技術者としての心構えについて自ら考え、知識や技術、情報などを自発的かつ継続的に獲得する能力を養う。				
授業の進め方・方法	実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解するため、企業におけるインターンシップ、海外語学留学など体験型の学習を実施する。				
注意点	(1) 研修先により異なるため、受け入れ先の条件、概要を充分把握しておくこと。 (2) 研修中は、受け入れ先の指導を良く守り、本校の学生であることを自覚して行動すること。また、事前に傷害保険等に入っておくこと。 (3) 報告書は、期限内に必ず提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概要説明	(1) 特別学修に取り組むに当たっての基本的な心構えについて認識できる。 (2) 研修の概要、目的を理解する。 (3) 特別学修の報告書の書き方について理解できる。 (4) 特別学修を実施する際の災害防止と安全について理解できる。	
		2週	研修先の希望調査	先の受け入れ先の条件等を把握する。	
		3週	研修先の希望調査	先の受け入れ先の条件等を把握する。	
		4週	研修先の調整	受け入れ先の決定を行う。	
		5週	研修先の調整	受け入れ先の決定を行う。	
		6週	事前調査	受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。	
		7週	事前調査	受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。	
		8週	事前レポートの作成	受け入れ先について調べた内容をレポートとして作成する。	
	2ndQ	9週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		10週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		11週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		12週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		13週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		14週	研修成果レポートの作成	研修内容をレポートにまとめる。	
		15週	研修成果レポートの作成	研修内容をレポートにまとめる。	
		16週			

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート・課題	発表	成果品・実技	合計
総合評価割合	0	0	0	0	50	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
専門的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ビジネス基礎
科目基礎情報					
科目番号	1944011		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は特に用いない。プリントを配布する。				
担当教員	岡山 正人, 中道 豪一				
到達目標					
(1)ビジネスに必要な基礎的素養を身につける (2)秘書検定の要求する水準を超えた知識を習得する (3)様々な文書(メールを含む)の作成能力を習得する					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	秘書検定の想定する基準を超えた知識を身につけている	秘書検定の要求する基準の知識を身につけている	秘書検定の要求する基準の知識を身につけている		
評価項目2	様々な文書(メールを含む)を80~100%作成することができる	様々な文書(メールを含む)を60~79%作成することができる	様々な文書(メールを含む)の作成率が60%を下回る		
評価項目3	秘書検定以外のビジネス知識についての理解度が80~100%	秘書検定以外のビジネス知識についての理解度が60~79%	秘書検定以外のビジネス知識についての理解度が60%を下回る		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業はビジネスに必要な基礎的素養を身につけることを目的とします。学習を進めるにあたっては秘書検定(2~3級)の要求する水準を基準にするので、本授業を履修することで、検定受験にも取り組みやすくなる点が特徴です。また基礎的内容でありながら、秘書検定では触れることのない内容(メールマナーなど)についても積極的に取り入れていきます。				
授業の進め方・方法	授業は板書形式で進行させます。授業の大まかな流れは、各回内容についての「レクチャー」を行い、その後に「課題」を配布。実際に取り組んでもらった後に「総括」を行います。				
注意点	1)講義は板書形式で進行させるので、ノートやルーズリーフを準備しましょう(※定期試験時にノート提出を求めています) 2)配布されたプリントは学年末まで保管しましょう。(※学年末試験に前期の内容が出題されることがあります) 3)映像や音声を用いるために教室移動をする場合があります。(※その際は事前に告知します) 4)学生の発言を求めています。 5)コロナウイルス感染状況等の事情で授業内容や順番を変更することがあります。(※その際は事前に告知します) 6)定期試験は披見不可で実施し、授業毎の復習を前提として作成します。 7)不必要な私語をはじめ学習に関係ない行為は減点の対象とします。 8)病欠等やむを得ない状況で欠席した学生の提出物については締め切りを配慮します。 【担当: 中道非常勤講師】				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス&秘書検定「必要とされる資質」パート①	「必要とされる資質」パートのレクチャー・問題を通してビジネスマナーを身につける	
		2週	秘書検定「必要とされる資質」パート②	同上	
		3週	秘書検定「必要とされる資質」パート③	同上	
		4週	秘書検定「職務知識」パート①	「職務知識」パートのレクチャー・問題を通してビジネスマナーを身につける	
		5週	秘書検定「職務知識」パート②	同上	
		6週	秘書検定「職務知識」パート③	同上	
		7週	秘書検定「一般知識」パート①&総合演習	「一般知識」パートのレクチャー・問題を通して基礎的なビジネス知識を身につける	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	秘書検定「一般知識」パート②	「一般知識」パートのレクチャー・問題を通して基礎的なビジネス知識を身につける	
		10週	秘書検定「マナー・接遇」パート①	「マナー・接遇」パートのレクチャー・問題を通してビジネスマナーを身につける	
		11週	秘書検定「マナー・接遇」パート②	同上	
		12週	秘書検定「マナー・接遇」パート③	同上	
		13週	秘書検定「技能」パート①	「技能」パートのレクチャー・問題を通してビジネスマナーを身につける	
		14週	秘書検定「技能」パート②	同上	
		15週	秘書検定「技能」パート③&総合練習	同上	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	秘書検定「必要とされる資質」パート④	「必要とされる資質」パートのレクチャー・やや実践的な問題を通してビジネスマナーを身につける	
		2週	秘書検定「必要とされる資質」パート⑤	同上	
		3週	秘書検定「必要とされる資質」パート⑥	同上	

4thQ	4週	秘書検定「職務知識」パート④	「職務知識」パートのレクチャー・やや実戦的な問題を通してビジネスマナーを身に着ける
	5週	秘書検定「職務知識」パート⑤	同上
	6週	秘書検定「職務知識」パート⑥	同上
	7週	秘書検定「一般知識」パート③&総合練習	「一般知識」パートのレクチャー・やや実戦的な問題を通してビジネスマナーを身に着ける
	8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	9週	秘書検定「一般知識」パート④	「一般知識」パートのレクチャー・やや実戦的な問題を通してビジネスマナーを身に着ける
	10週	秘書検定「マナー・接遇」パート④	「マナー・接遇」パートのレクチャー・やや実戦的な問題を通してビジネスマナーを身に着ける
	11週	秘書検定「マナー・接遇」パート④	同上
	12週	秘書検定「マナー・接遇」パート④	同上
	13週	秘書検定「技能」パート④	「マナー・接遇」パートのレクチャー・やや実戦的な問題を通してビジネスマナーを身に着ける
	14週	秘書検定「技能」パート⑤	同上
	15週	秘書検定「技能」パート⑥&総合練習	同上
	16週	後期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	30	0	100
基礎的能力	20	0	0	10	30	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ビジネス英語 I
科目基礎情報					
科目番号	1944012	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	The Little Prince				
担当教員	小川 春樹				
到達目標					
(1) 英語を道具として、適切に理解及び運用することができる。 (2) 異文化理解の姿勢を持ち、その第一歩として適切な語彙力を有する。 (3) 日本語と英語の両言語を一对一の対連関係ではなく、両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。 (4) 「話す、聞く、読む、書く」の四技能の理解及び運用できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1: 日本語の理解と運用	日本語を適切に理解及び運用することができる。	日本語の語感や意味を説明できる。	日本語の語感や意味を言語化できない。		
評価項目2: 英語の理解と運用	上記(1)を基に、日本語を適切な英語で、英語を適切な日本語で捉えることができる。	自分の言葉で両言語の異同を言語化することができる。	教員によるサポートがあっても両言語の異同を言語化できない。		
評価項目3: 言語に対する意識	異文化理解の姿勢を持ち、その第一歩として適切な語彙力を有する。	授業で紹介された語彙・表現に関しては全て理解し運用もできる。	授業で紹介された語彙・表現の理解及び運用ができない。		
評価項目4: 総合的な言語形式の理解と運用	日本語と英語の両言語を一对一の対連関係ではなく、両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解している。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解できない。		
評価項目5: 実践的な知識の理解と運用	「話す、聞く、読む、書く」の四技能の理解及び運用の能力を有する。	話す・聞く: 授業での会話練習で教員の問いかけに対して意味交渉をすることができる。 読む・書く: 綴りや言語形式を正しく書くことができる。	話す・聞く: 言語的に意思表示ができない。 読む・書く: 綴りや言語形式が正しく書けない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 授業では「The Little Prince」を読み、ストーリーに焦点を当て、英語の特異な表現やヨーロッパ思想的な解釈を理解し、それについて自ら考え、自らの言葉で相手に伝える訓練を行う。主として講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションや発表を行うこともある。 (2) 両言語の文化的背景や統語的・語彙的異同を理解し、総合的に様々な英語の資格のスコアアップを目指す。 (3) 暗記の勧めや試験においての得点力に関しては優先順位は低く、英語をツールとして利用できるようになることを目指す。				
授業の進め方・方法	授業は主として以下のように大きく三つのパートからなる。英語力の総合的な向上を目指し、「The Little Prince」を読み、理解する。扱った内容に関する英語表現や単語、ストーリーの流れをレクチャーしたのち、自らの経験や将来と照らし合わせ、自己理解や自己分析を行う。その内容について英語を使いコミュニケーションをとる練習を行う。また、ストーリーに登場する想像の難しい事柄については、体験を重視し、理解に努める。教員は適宜机間巡視を行うので、積極的に取り組み、質問があれば授業時間内に必ず解決することを求めたい。				
注意点	(1) 主として講義形式で進めるが、必要に応じて発表やディスカッションを行う。積極的な参加を求めたい。 (2) 不明な点がある場合は積極的に質問すること。 (3) 自分で考え、教員からの問いかけに対して自分の言葉で考えを言語化する姿勢を持ってほしい。 (4) 授業スケジュールは履修者の理解度に応じて適宜変更するため、あくまでも暫定的なものであることを申し添える。 (5) それぞれの学生の英語力向上意識に対して、幅広い対応を目指すため、自己の意識を授業の初めに確認しておくことを勧める。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	Orientation	授業進行上の注意点、成績評価などに関して理解する。	
		2週	The Little Prince Chapter 1	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
		3週	The Little Prince Chapter 2	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
		4週	The Little Prince Chapter 3	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
		5週	The Little Prince Chapter 4	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
		6週	The Little Prince Chapter 5	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
		7週	The Little Prince Chapter 6	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
	8週	Work on task1	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。		
	2ndQ	9週	The Little Prince Chapter 7	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。	
10週		The Little Prince Chapter 8	基本的な熟語表現、語彙を使えるようになり、自らの考えや意見を伝えることができる。		

後期	3rdQ	11週	The Little Prince Chapter 9	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		12週	The Little Prince Chapter 10	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		13週	The Little Prince Chapter 11	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		14週	The Little Prince Chapter 12	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		15週	The Little Prince Chapter 13	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		16週	Work on task2	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
	4thQ	1週	The Little Prince Chapter 14	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		2週	The Little Prince Chapter 15	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		3週	The Little Prince Chapter 16	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		4週	The Little Prince Chapter 17	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		5週	The Little Prince Chapter 18	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		6週	The Little Prince Chapter 19	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		7週	The Little Prince Chapter 20	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		8週	Work on task3	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		9週	The Little Prince Chapter 21	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
		10週	The Little Prince Chapter 22	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。
11週	The Little Prince Chapter 23	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		
12週	The Little Prince Chapter 24	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		
13週	The Little Prince Chapter 25	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		
14週	The Little Prince Chapter 26	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		
15週	The Little Prince Chapter 27	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		
16週	Work on task4	基本的な熟語表現, 語彙を使えるようになり, 自らの考えや意見を伝えることができる。		

評価割合

	試験	発表	提出物	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	40	20	0	0	100
基礎的能力	0	40	40	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	データベース		
科目基礎情報							
科目番号	1944014	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	流通情報工学科	対象学年	4				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	参考書: データベース入門 (サイエンス社)						
担当教員	加藤 博明						
到達目標							
(1) データベースシステムの基本概念を理解し、説明できる (2) 問い合わせ言語SQLの基礎を理解し、基本的な問合せが行える (3) DBMSを用いて基本的なデータベース操作ができるようになる							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	データベースの概念と仕組み、またその管理システムの機能が説明できる。	データベース管理システムの基本概念が説明できる。	データベース管理システムの基本概念が説明できない。				
評価項目2	SQLの基礎を理解し、テーブルの操作や、データに対する複雑な問合せのSQL文が記述できる。	データへの基本的な問合せのSQL文が記述できる。	データへの基本的な問合せのSQL文が記述できない。				
評価項目3	DBMSを用いてテーブルとデータに対する複雑な操作ができる。	DBMSを用いてテーブルとデータの基本的な操作ができる。	DBMSを用いてテーブルとデータの基本的な操作ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	データベースは情報社会を支える基盤技術の一つであり、大規模な組織の情報管理のために不可欠なものとなっている。広く普及しているリレーショナルデータベースを中心に、基礎的な項目について、理論と実践の両面から学習する。						
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことはあれば、積極的に質問すること。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	1. データベースの基本概念	1- (1) データベースとその管理システム(DBMS)の概要が説明できる。			
		2週	1. データベースの基本概念	1- (2) DBMSの主機能、構成が説明できる。			
		3週	2. リレーショナルデータモデル	2- (1) リレーショナルデータモデルが説明できる。			
		4週	2. リレーショナルデータモデル	2- (2) 整合性制約が説明できる。			
		5週	3. リレーショナル代数	3- (1) 集合演算が説明できる。			
		6週	3. リレーショナル代数	3- (2) リレーショナル演算が説明できる。			
		7週	3. リレーショナル代数	3- (3) リレーショナル演算が記述できる。			
		8週	中間試験 答案返却・解説				
	2ndQ	9週	4. 問合せ言語SQL	4- (1) SQLの基本的な記述ルールが説明できる。			
		10週	4. 問合せ言語SQL	4- (2) データの参照SQLが記述できる。			
		11週	4. 問合せ言語SQL	4- (3) データの更新SQLが記述できる。			
		12週	5. データベースの設計	5- (1) 実体関連モデルが説明できる。			
		13週	5. データベースの設計	5- (2) 実体関連モデル図が記述できる。			
		14週	5. データベースの設計	5- (3) 正規化の概念が説明できる。			
		15週	6. データベース技術の応用	6 ピックデータの活用例が説明できる。			
		16週	期末試験 答案返却・解説				
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	スケジュール管理		
科目基礎情報							
科目番号	1944015		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1) P E R Tがどのようなものかを簡単に説明できる。							
(2) P E R Tの基本的な問題が解けるとともに、得られた結果の内容を簡単に説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	作業リストからアローダイアグラムを作成し、それをもとにP E R T計算表を作成できる。さらに所要期間を確率的に求められる。またC P Mを用いて所要期間の短縮ができる。		簡単な作業リストからアローダイアグラムを作成し、それをもとにP E R T計算表を作成できる。		簡単な作業リストからアローダイアグラムを作成し、それをもとにP E R T計算表を作成することができない。		
評価項目2			簡単な線形計画法の問題がシンプレックス法を用いて解くことができる。		簡単な線形計画法の問題がシンプレックス法を用いて解くことができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	スケジュール管理に関わる手法としてP E R Tについて学び、流通、物流、生産に関するシステムの運用管理における基礎的な技術を身に付ける。						
授業の進め方・方法	講義を中心に授業を進める。年に数回演習を行いそのレポートを提出してもらう。						
注意点	一次関数、不等式について復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	0. スケジュール管理とP E R T	0 - (1) スケジュール管理の必要性やP E R Tなどスケジュール管理に関する手法にどのようなものがあるかを説明できる。			
		2週	0. スケジュール管理とP E R T	0 - (1) スケジュール管理の必要性やP E R Tなどスケジュール管理に関する手法にどのようなものがあるかを説明できる。			
		3週	1. アローダイアグラム	1 - (1) アローダイアグラムがどのようなものか説明することができる。			
		4週	1. アローダイアグラム	1 - (2) アローダイアグラムを作成できる。			
		5週	1. アローダイアグラム	1 - (2) アローダイアグラムを作成できる。			
		6週	1. アローダイアグラム	1 - (2) アローダイアグラムを作成できる。			
		7週	1. アローダイアグラム	1 - (2) アローダイアグラムを作成できる。			
		8週	1. アローダイアグラム	1 - (2) アローダイアグラムを作成できる。			
	2ndQ	9週	2. P E R T	2 - (1) アローダイアグラムから計算してP E R T表を作表できる			
		10週	2. P E R T	2 - (1) アローダイアグラムから計算してP E R T表を作表できる			
		11週	2. P E R T	2 - (1) アローダイアグラムから計算してP E R T表を作表できる			
		12週	2. P E R T	2 - (2) 確率的に所要期間を求められる			
		13週	2. P E R T	2 - (2) 確率的に所要期間を求められる			
		14週	3. C P M	3 - (1) C P Mを用いて経済的な所要期間の短縮ができる			
		15週	3. C P M	3 - (1) C P Mを用いて経済的な所要期間の短縮ができる			
		16週	3. C P M	3 - (1) C P Mを用いて経済的な所要期間の短縮ができる			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	データ解析		
科目基礎情報							
科目番号	1944016		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書は特に指定しない。各種統計学の教科書が図書館等にはたくさんあるので参考にしていきたい。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1)母集団や標本の概念が説明できる。 (2)点推定および区間推定の考え方が説明できる。 (3)統計的検定の基礎的な考え方が説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	母集団や標本の概念が説明でき、統計的推定や検定の必要性について説明できる。		母集団、標本の概念が簡単に説明できる。		母集団、標本の概念が理解できていない。		
評価項目2	点推定になる条件や最尤推定法の考え方が説明できるとともに、平均値に関する区間推定の考え方を説明することができる。		点推定について簡単に説明することができ、平均値に関する簡単な区間推定の問題を解くことができる。		平均値に関する簡単な区間推定の問題を解くことができない。		
評価項目3	平均値に関する簡単な検定問題を例にとり、統計的検定の考え方を説明することができる。		平均値に関する簡単な検定問題を解くことができる。		平均値に関する簡単な検定問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	コンピュータを利用する際、最もその能力を発揮するもののひとつは大量のデータを分析することである。ここでは、そうしたデータを分析するための基礎的な手法を習得する。統計的な推定および検定の考え方を理解し、正規分布やt分布を使った区間推定、検定問題の基礎を学習する。						
授業の進め方・方法	統計的な推定および検定の考え方を理解し、正規分布やt分布を使った区間推定、検定問題の基礎を学習する。遠隔授業および講義により授業を進める。遠隔授業では毎回、講義では適宜演習を行いそのレポートを提出してもらう。						
注意点	Σ記号の計算、不等式の計算、基本統計量の意味などを復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	統計的推定とは	統計的検定とはどのようなものかを簡単に説明できる。			
		2週	点推定とは	不偏性、有効性、一致性など点推定量となるための条件について説明できる。			
		3週	平均値の区間推定 1	母分散が既知の場合の平均値の区間推定ができる。			
		4週	平均値の区間推定 2	母分散が未知で標本数が多い場合の平均値の区間推定ができる。			
		5週	平均値の区間推定 3	母分散が未知で標本数が少ない場合の平均値の区間推定ができる。			
		6週	平均値の区間推定の演習 1	平均値の区間推定の演習を行い、得られら結果を説明できる。			
		7週	平均値の区間推定の演習 2	平均値の区間推定の演習を行い、得られた結果を説明できる。			
		8週	予備				
	4thQ	9週	統計的検定とは	統計的検定とはどのようなものかを簡単に説明できる。			
		10週	統計的検定の考え方	第1種、第2種の誤り、検定域の設定の考え方を説明できる。			
		11週	平均値の検定 1	母分散が既知の場合の平均値の検定ができる。			
		12週	平均値の検定 2	母分散が未知で標本数が多い場合の平均値の検定ができる。			
		13週	平均値の検定 3	母分散が未知で標本数が少ない場合の平均値の検定ができる。			
		14週	平均値の検定の演習 1	平均値の検定方法の演習を行い、得られら結果を説明できる。			
		15週	平均値の検定の演習 2	平均値の検定方法の演習を行い、得られら結果を説明できる。			
		16週	予備				
評価割合							
	試験	遠隔授業、講義受通の課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	80	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	80	0	0	0	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	流通情報工学演習
科目基礎情報					
科目番号	1944017		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書は使用しない。参考書は各研究室のテーマに関する専門書および研究論文等の文献を使用する。				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
(1) 流通情報工学科で学習した内容について演習を通して理解を深めるとともに、学習した内容をより実践で使えるものとする。 (2) 演習やレポート作成などを通して実践的な情報処理技術を習得する。 (3) テーマ別卒業研究をとおして、フィールド調査・文献整理・データ統計分析・システム設計・プロジェクト企画・レポートおよび資料作成の方法を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各テーマにおける演習を理解し、課題に取り組み、レポート等にまとめることができる。継続的な取り組みができる。		各テーマにおける演習を理解し、課題に取り組み、レポート等にまとめることができる。		各テーマにおける演習を理解できず、課題に取り組めない。
評価項目2	分かりやすいスライドを作成し、発表できる。		スライドを作成し、発表できる。		スライドを用いて発表できない。
評価項目3	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。		自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。		自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) テーマごとに担当教員が個別指導を行う。 (2) 各テーマに関係する専門科目の授業の復習、専門書や研究論文等の文献を読んで理解に務めること。 (3) テーマへの取り組み姿勢、レポートを考慮に入れ総合的に評価する。				
授業の進め方・方法					
注意点	【担当：流通情報工学科各教員】				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション	
		3週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション	
		4週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション	
		5週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション	

		15週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション
		16週	テーマ別演習	以下のテーマの演習を行う。 ・エクセルの基本操作、グラフ作成、データの判定、関数と計算式 ・エクセルのマクロ (VBA) を使ってプログラミング ・財務諸表の読み方、収益性分析、安全性分析 ・単回帰分析、Excelによる単回帰分析と係数の検定 ・セービング法を用いた集配送ネットワークの設計 ・データベースからの知識獲得 ・流通システムにおける数理計画法の導入 ・プレゼンテーション
後期	3rdQ	1週	インターンシップ報告	各自のインターンシップについて報告・討論を行う。
		2週	インターンシップ報告	各自のインターンシップについて報告・討論を行う。
		3週	インターンシップ報告	各自のインターンシップについて報告・討論を行う。
		4週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		5週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		6週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		7週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		8週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
	4thQ	9週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		10週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		11週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		12週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		13週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		14週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		15週	テーマ別ブレ卒業研究	テーマ別ブレ卒業研究で、演習・フィールド調査・データ分析・輪読・レポート作成を行う。
		16週	まとめ	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート・課題	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	0	40	50
分野横断的能力	0	10	0	0	0	40	50

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ネットワーク基礎
科目基礎情報					
科目番号	1944019	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	(参考書) 小口正人, 「コンピュータネットワーク入門 - TCP/IPプロトコル群とセキュリティ」, サイエンス社, 2007年; 井上直也 他, 「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」, オーム社, 2019年				
担当教員	加藤 博明				
到達目標					
(1) 情報通信ネットワークの要素技術の原理を理解する (2) インターネットの運用を見据えた基幹技術の概要を理解する (3) 新世代ネットワークを見据えた新しい研究トピックについて理解する					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	OSI参照モデルをはじめとしたネットワークのレイヤ構造を理解し、あるレイヤの動作が他のレイヤの性能にどのように影響を及ぼすかを説明できる 継続的な取り組みができる。	OSI参照モデルをはじめとしたネットワークのレイヤ構造とその役割について説明できる	OSI参照モデルのレイヤ構造とその役割が理解できない		
評価項目2	インターネットの重要な技術であるルーティングについて各プロトコルの概要と動作が説明でき、状況に応じた適切なプロトコルの選択ができる	インターネットの運用においても重要な技術であるルーティングについて各プロトコルの概要が説明できる	インターネットの運用において重要な技術であるルーティングについて各プロトコルの動作説明できない		
評価項目3	新世代ネットワークの新しい研究トピックについてその概要を説明できるとともに、既存のネットワーク技術との本質的な違いについて説明できる	新世代ネットワークを見据えた新しい研究トピックについてその概要が説明できる	新世代ネットワークを見据えた新しい研究トピックについてその概要が説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	情報ネットワーク技術の概要と基礎についてインターネット技術を中心に学ぶ。インターネットを支えるTCP/IPプロトコル群と経路制御の基礎について学習する。				
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことはあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. コンピュータネットワークと階層プロトコル	1-(1) コンピュータネットワークの概要が説明できる。	
		2週	1. コンピュータネットワークと階層プロトコル	1-(2) 階層プロトコルとその利点が説明できる。	
		3週	2. インターネットとTCP/IP	2-(1) インターネットの概要が説明できる。	
		4週	2. インターネットとTCP/IP	2-(2) TCP/IPプロトコル群が説明できる。	
		5週	3. 上位層プロトコルとアプリケーション	3-(1) アプリケーション層の概要が説明できる。	
		6週	3. 上位層プロトコルとアプリケーション	3-(2) Webの通信プロトコルが説明できる。	
		7週	3. 上位層プロトコルとアプリケーション	3-(3) Mailの通信プロトコルが説明できる。	
		8週	前期中間試験 答案返却・解説		
	2ndQ	9週	4. トランスポート層	4-(1) トランスポート層の概要が説明できる。	
		10週	4. トランスポート層	4-(2) コネクションレス型プロトコルUDPが説明できる。	
		11週	4. トランスポート層	4-(3) コネクション型プロトコルTCPが説明できる。	
		12週	5. インターネット層	5-(1) インターネット層の概要が説明できる。	
		13週	5. インターネット層	5-(2) IPアドレスが説明できる。	
		14週	5. インターネット層	5-(3) サブネットマスクが説明できる。	
		15週	5. インターネット層	5-(4) IPを支える関連技術について説明できる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	6. 経路制御	6-(1) 経路制御プロトコルの概要が説明できる。	
		2週	6. 経路制御	6-(2) 経路制御アルゴリズムをトレースすることができる。	
		3週	6. 経路制御	6-(3) 動的経路制御の概要が説明できる。	
		4週	7. 下位層プロトコル	7-(1) 下位層プロトコルの概要が説明できる。	
		5週	7. 下位層プロトコル	7-(2) データリンクのトポロジーが説明できる。	

4thQ	6週	7. 下位層プロトコル	7-(3) MACアドレスの概要が説明できる。
	7週	7. 下位層プロトコル	7-(4) 送信権制御方式の概要が説明できる。
	8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	9週	8. 下位層メディアとハードウェア	8-(1) 有線ネットワークの概要が説明できる。
	10週	8. 下位層メディアとハードウェア	8-(2) 無線ネットワークの概要が説明できる。
	11週	8. 下位層メディアとハードウェア	8-(3) ネットワーク機器の概要が説明できる。
	12週	9. 新世代ネットワーク技術	9-(1) IPv6の概要が説明できる。
	13週	9. 新世代ネットワーク技術	9-(2) 次世代通信の仕組みが説明できる。
	14週	9. 新世代ネットワーク技術	9-(3) 情報セキュリティの重要性が説明できる。
	15週	9. 新世代ネットワーク技術	9-(4) ネットワーク技術の応用が説明できる。
16週	学年末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	システム構築
科目基礎情報					
科目番号	1944021		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 「Linux標準教科書」、「Linuxサーバー構築標準教科書」				
担当教員	岩切 裕哉				
到達目標					
(1) Linuxサーバーの構築と設定方法を理解する。 (2) Linux OSのコマンド操作を理解する。 (3) Linux OSの基本的事項を理解する。 (4) 各種Linuxサーバーの役割を理解する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Linux環境の設定内容を理解し、自ら設定をカスタマイズできる。	Linuxの設定内容を理解できる。	Linux環境の設定内容を理解していない。		
評価項目2	各種Linuxサーバーの設定方法を理解し、自ら設定をカスタマイズできる。	各種Linuxサーバーの設定方法を理解できる。	各種Linuxサーバーの設定方法を理解していない。		
評価項目3	LinuxOSのコマンド操作を理解し、自ら様々な制御コマンドを使いこなせる。	LinuxOSのコマンド操作を理解できる。	LinuxOSのコマンド操作を理解していない。		
評価項目4	Linux OSの基本的事項を理解し、ファイルパーミッションなどの適切な設定について検討できる。	LinuxOSの基本的事項を理解している。	Linux OSの基本的事項を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	Linux環境下で代表的なサービスのインストールと設定を行い、情報システムの構築方針ならびに運用方針などを検討する能力を養う。				
授業の進め方・方法					
注意点	(1) LinuxOSはこれまで操作してきたWindowsOSと大きく環境が異なるため、前回授業の理解を確実にし、単元ごとに遅れが出ないようにすること。 (2) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に調査するとともに、質問も積極的に行うこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	LinuxOSのインストール	ネットワークサーバーの代表的なOSとして利用されているLinuxの概要を学ぶとともに、CentOSを実際に仮想環境にインストールする。また、今後、様々な設定を行うための、初期設定を行う。	
		2週	LinuxOSのインストール	ネットワークサーバーの代表的なOSとして利用されているLinuxの概要を学ぶとともに、CentOSを実際に仮想環境にインストールする。また、今後、様々な設定を行うための、初期設定を行う。	
		3週	LinuxOSのインストール	ネットワークサーバーの代表的なOSとして利用されているLinuxの概要を学ぶとともに、CentOSを実際に仮想環境にインストールする。また、今後、様々な設定を行うための、初期設定を行う。	
		4週	Linuxにおける基本的な事項	Linuxを制御するために修得が必要な基本的事項について学ぶ。また、コマンドによるLinux制御を学ぶ。	
		5週	Linuxにおける基本的な事項	Linuxを制御するために修得が必要な基本的事項について学ぶ。また、コマンドによるLinux制御を学ぶ。	
		6週	Linuxにおける基本的な事項	Linuxを制御するために修得が必要な基本的事項について学ぶ。また、コマンドによるLinux制御を学ぶ。	
		7週	Linuxにおける基本的な事項	Linuxを制御するために修得が必要な基本的事項について学ぶ。また、コマンドによるLinux制御を学ぶ。	
		8週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ	
	2ndQ	9週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ	
		10週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ	
		11週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ	
		12週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ	

後期		13週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ
		14週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ
		15週	Linuxにおけるリモートアクセスとセキュリティ設定	Linuxの制御を遠隔で行うためのリモートアクセスの概要と鍵交換方式によるセキュアなリモートアクセス手法の導入手法について学ぶ
		16週	前期末試験 答案返却・解説	
	3rdQ	1週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		2週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		3週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		4週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		5週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		6週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		7週	FTPサーバ, Webサーバの構築	ファイル共有やデータ公開のために一般的に用いられるFTPサーバやWebサーバの構築を行う。また、実際にサービスとして運用する場合の適切な権限設定について検討を行う。
		8週	クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。
	4thQ	9週	クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。
		10週	クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。
		11週	クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。
		12週	クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。
13週		クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。	
14週		クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。	
15週		クラウドサーバのインストール	クラウドサービスの概要を理解するとともに、実際に、クラウドサーバを構築する。	
16週		学年末試験 答案返却・解説		

評価割合			
	試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	30	30	60
専門的能力	40	0	40
分野横断的能力	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	経済学概論
科目基礎情報					
科目番号	1944024		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	スタートアップ会计学				
担当教員	風呂本 武典				
到達目標					
(1)会計の基本的な仕組みを理解する。 (2)会計システムを自分の言葉で説明できる。 (3)会計を通じて実際の経済社会問題を理解し疑問を究明できる。 (4)基礎的な財務、会計分析ができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	企業会計について、概念を整理し、財務分析を行い、示す事が出来る。		企業会計について、概念を整理し示すことができる。財務分析を読める。		企業会計について概念を整理し、示すことができない。財務分析を読めない。
評価項目 2	企業経営について、管理会計、原価計算などについて概念を整理し、示すこと、実務計算を行うことができる。		企業経営について、管理会計、原価計算などについて概念を整理し、示すことができる。		企業経営について、管理会計、原価計算などについて概念を整理し、示すことができない。
評価項目 3	会計制度について、制度、監査、税務などについて概念を整理し、示すことができる。		会計制度について、概念を整理し、示すことができる。		会計制度について、概念を整理し、示すことができない。
評価項目 4	国際貿易についてグローバルイゼーション、国際会計などの概念を整理し、示す事が出来る。		国際貿易について、国際会計の概念を整理し示す事が出来る。		国際貿易について、国際会計の概念を整理し示す事が出来ない。
評価項目 5	会計を通じて実際の経済社会問題を整理し、示す事が出来る。		会計を通じて実際の経済社会問題を示す事が出来る。		会計を通じて実際の経済社会問題を整理し示すことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会に出ていく上で必要となる幾つかの知識のうち、経済学、会计学の知識・理論を学びます。一つ一つの経済主体がどのようなメカニズムで動いているのか、それらがどのように組み合わさり経済社会をどう形成しているのか。自分たちはどのように活躍していくのかを理解し自らのものとし、社会人として活動するのか、を学びます。会計システムを通じて資本主義社会のしくみを考察します。ヒト・モノ・カネの動きを表す財務会計事象について基礎的な分析力を養います。授業は座学が中心ですが、講師からの一方通行ではなく、講師と学生の皆さん、また、学生の皆さん同士での議論を通じた成長を目指します。そのために、ケースメソッドを多様した授業とします。積極的な参加を必要とします。				
授業の進め方・方法	前回までの授業内容を復習し自らのものとして次の授業に参加してください。一人一人の、積極的な参加を求めます。課題を自ら解く自学自習の習慣を望みます。当然ですが、授業の妨げとなる行為は禁止し、これにペナルティを課します。定期試験を中心に評価しますが、課題等によって加点を行うことも検討します。				
注意点	当然ですが、授業の妨げとなる行為は禁止し、これにペナルティを課します。欠席時数が多い、授業参加態度が良くないなどの場合も減点対象となります。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	会计学、財政学	企業、家計、財政	
		2週	企業会計	さまざまな経営形態と会計制度	
		3週	財務諸表分析	ROE	
		4週	財務諸表分析	ROE	
		5週	財務諸表分析	損益計算書	
		6週	財務諸表分析	貸借対照表	
		7週	財務諸表分析	財務諸表分析	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	管理会計	管理会計	
		10週	管理会計	損益分岐点計算	
		11週	原価計算	工業簿記	
		12週	原価計算	費用配賦	
		13週	制度会計	制度会計	
		14週	制度会計	会計基準	
		15週	前期末試験		
		16週	答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	制度会計	連結財務諸表	
		2週	監査	監査	
		3週	監査	粉飾決算	
		4週	監査	監査と不正	

4thQ	5週	税務会計	法人税
	6週	税務会計	課税所得
	7週	税務会計	節税と脱税
	8週	後期中間試験	
	9週	経済活動の実際	グローバリゼーション
	10週	経済活動の実際	国際会計
	11週	経済活動の実際	会計ルールの統一問題
	12週	経済活動の実際	環境会計
	13週	経済活動の実際	企業の社会的貢献
	14週	経済活動の実際	非営利事業
	15週	経済活動の実際	公会計、財政
	16週	答案返却・解説	

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	10	0	0	10	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	10	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	10	0	10	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	商法
科目基礎情報					
科目番号	1944025		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ポケット六法				
担当教員	金子 春生				
到達目標					
(1)民法第1編と第2編(総則・物権法)の基本事項を理解する。 (2)民法第3編(債権法)の基本事項を理解する。 (3)民法第4編と第5編(家族法)の基本事項を理解する。 (4)民法と商法の関係・異動を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	民法総則・物権の基礎概念、意思表示の合致の過程、所有権、担保物権について理解し、説明できる。		民法総則・物権の基礎概念について理解し、説明できる。		民法総則・物権の基礎概念について理解し、説明できない。
評価項目2	債権法の基礎概念、契約、不法行為などについて理解し、説明できる。		債権法の基礎概念について理解し、説明できる。		債権法の基礎概念について理解し、説明できない。
評価項目3	家族法、具体的には、結婚、離婚、相続、遺産などについて理解し、説明できる。		家族法について理解し、説明できる。		家族法について理解し、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ビジネスパーソンとして習得すべき法学知識のうち私法の一般法である民法の概説をする。5年次配当の「コーポレートガバナンス」につなげるための下地を作ることを目的とする。 ※この科目では、官公庁での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的なビジネス(主に契約)に関するルール等の教育を行う。				
授業の進め方・方法	授業の冒頭では、極力直近のニュースを取り上げ、社会に目を向けることを意識させるようにする。また、インターンシップや就活を前にし、企業の法的な仕組みについて理解することを目的とする。 また、授業1回分の時間を使い「日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナー」を開催する場合がある。本セミナーは実務家である弁理士の先生をお呼びして、特許実務についての講演をしていただくものである。				
注意点	教科書は3年次に購入した教科書を使用する。授業を聞き、メモを取り、内容を理解してください。授業中私からの発問に対する応答の態様も重要です。 可能な範囲でケースメソッド方式による授業展開を図りたい。 毎時間、その日の授業についてのコメントを専用のシートに書いて、提出してもらう。書かれていない項目などがあれば、課題点から減点する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.民法総則	1-(1)法律行為が理解できない。	
		2週	1.民法総則	1-(2)パンデクテン方式を理解し、民法の体系を理解し、説明できる。	
		3週	1.民法総則	1-(3)一般条項について理解し、説明できる。	
		4週	1.民法総則	1-(4)権利能力について理解し、説明できる。	
		5週	1.民法総則	1-(5)意思の合致について理解し、説明できる。	
		6週	1.民法総則	1-(6)代理制度について理解し、説明できる。	
		7週	1.民法総則	1-(7)時効制度について理解し、説明できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	2.物権	2-(1)債権の発生原因を挙げられない。	
		10週	2.物権	2-(2)所有権について理解し、説明できる。	
		11週	2.物権	2-(3)担保物権について理解し、説明できる。	
		12週	3.債権	3-(1)債権の発生原因について理解し、説明できる。	
		13週	3.債権	3-(2)典型契約について理解し、説明できる。	
		14週	3.債権	3-(3)保証契約について理解し、説明できる。	
		15週	3.債権	3-(4)債務不履行について理解し、説明できる。	
		16週	前期試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	3.債権	3-(5)事務管理、不当利得について理解し、説明できる。	
		2週	3.債権	3-(6)不法行為の要件について理解し、説明できる。	
		3週	3.債権	3-(7)不法行為の効果について理解し、説明できる。	
		4週	3.債権	3-(8)損害賠償請求に対する抗弁について理解し、説明できる。	
		5週	3.債権	3-(9)特殊な不法行為について理解し説明できる。	

		6週	4.民法と商法	4-(1)一般法と特別法の関係が理解できない。
		7週	4.民法と商法	4-(2)民法と商法を比較して、条文・制度を説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	5.親族法	5-(1)家族法の基本概念を理解し、説明できる。
		10週	5.親族法	5-(2)親族関係について理解し、説明できる。
		11週	5.親族法	5-(3)婚姻制度について理解し、説明できる。
		12週	5.親族法	5-(4)離婚制度について理解し、説明できる。
		13週	6.相続法	6-(1)相続人が誰になるかを理解し、説明できる。
		14週	6.相続法	6-(2)相続割合について理解し、相続額を計算できる。
		15週	6.相続法	6-(3)遺産、寄与分、遺留分について理解し、説明できる。
16週	前期試験 答案返却・解説			

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物流施設計画
科目基礎情報					
科目番号	1944026		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定なし				
担当教員	小川 春樹				
到達目標					
(1) 物流施設がどのような役割を持ち、どのような仕組みを有しているかを理解する。 (2) 施設の配置計画を定式化 (モデル化) できる。 (3) モデル化された数式を解くことにより最適な物流施設の配置を求解できる。 (4) 効率的な運用のための管理方法を設計できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	物流施設がどのような役割を持ち、どのような仕組みを有しているかを具体例を用いて詳細に説明できる。		物流施設がどのような役割を持ち、どのような仕組みを有しているかを簡単な例を用いて説明できる。		物流施設がどのような役割を持ち、どのような仕組みを有しているかを簡単な例を用いて説明できない。
評価項目2	施設の配置計画を一般化した数式を用いて定式化 (モデル化) できる。		施設の配置計画を簡単な数式を用いて定式化 (モデル化) できる。		施設の配置計画を数式を用いて定式化 (モデル化) できない。
評価項目3	モデル化された数式を解くことにより最適な物流施設の配置を求解でき、解の正当性を説明できる。		モデル化された数式を解くことにより最適な物流施設の配置を求解できる。		モデル化された数式を解くことにより最適な物流施設の配置を求解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物流において物流施設の役割や仕組み、配置計画の考え方を理解しておくことは非常に重要である。本講義では、物流施設への仕組みを理解するとともに、物流施設の最適な配置を求める。また、実際に配置された物流施設の運用効率を高めるため管理方法についても学習する。				
授業の進め方・方法	(1) 流通情報工学科の流通ビジネス系の専門科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・配布プリントなどを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	物流施設の役割, 計画について理解できる	
		2週	ピークルーチェーン問題	VSP問題について説明できる	
		3週	ピークルーチェーン問題	VSP問題の簡単な規模のモデルを解くことができる	
		4週	ピークルーチェーン問題	VSP問題の実体例のモデルを解くことができる	
		5週	ピークルーチェーン問題	VSP問題の実体例のモデルを解くことができる	
		6週	ピークルーチェーン問題	VSP問題の応用例のモデルを解くことができる	
		7週	ガントチャート	ガントチャートの構成とその役割を説明できる	
		8週	ガントチャート	簡単なガントチャートを作成できる	
	2ndQ	9週	ガントチャート	実体例に基づくガントチャートを作成できる	
		10週	ガントチャート	実体例に基づくガントチャートを作成できる	
		11週	空港ターミナル計画問題	空港ターミナル計画問題について説明できる	
		12週	空港ターミナル計画問題	空港ターミナル計画問題の簡単な規模のモデルを解くことができる	
		13週	空港ターミナル計画問題	空港ターミナル計画問題の実体例のモデルを解くことができる	
		14週	空港ターミナル計画問題	空港ターミナル計画問題の実体例のモデルを解くことができる	
		15週	空港ターミナル計画問題	空港ターミナル計画問題の応用例のモデルを解くことができる	
		16週	前期末課題		
後期	3rdQ	1週	数理最適化問題	数理計画問題について説明できる	
		2週	数理最適化問題	数理最適化問題の簡単な規模のモデルを解くことができる	
		3週	数理最適化問題	数理最適化問題の実体例のモデルを解くことができる	
		4週	数理最適化問題	数理最適化問題の実体例のモデルを解くことができる	
		5週	数理最適化問題	数理最適化問題の応用例のモデルを解くことができる	
		6週	バース割当問題	バース割当問題について説明できる	
		7週	バース割当問題	バース割当問題の簡単な規模のモデルを解くことができる	

4thQ	8週	バース割当問題	バース割当問題の実体例のモデルを解くことができる
	9週	バース割当問題	バース割当問題の実体例のモデルを解くことができる
	10週	バース割当問題	バース割当問題の応用例のモデルを解くことができる
	11週	輸送ネットワーク問題	輸送ネットワーク問題について説明できる
	12週	輸送ネットワーク問題	輸送ネットワーク問題の簡単な規模のモデルを解くことができる
	13週	輸送ネットワーク問題	輸送ネットワーク問題の実体例のモデルを解くことができる
	14週	輸送ネットワーク問題	輸送ネットワーク問題の実体例のモデルを解くことができる
	15週	輸送ネットワーク問題	輸送ネットワーク問題の応用例のモデルを解くことができる
	16週	学年末課題	

評価割合

	試験	レポート課題			ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	50	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	マーチャンダイジング
科目基礎情報					
科目番号	1944027	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	販売士3級検定試験テキスト (実務出版)				
担当教員	内山 憲子				
到達目標					
<p>流通・ビジネス系科目として、小売業における一連の作業プロセスとしてのマーチャンダイジングの構成要素と全体像を学習します。そのために、小売業の種類、ストアオペレーション、マーケティングおよび販売・経営管理の概要について基本的なしくみを習得し、その基礎的な知識と技術を流通・ビジネスの実務に応用できる能力 (リテールマーケティング(販売士)3級レベル) を身につけます。</p> <p>到達目標は次の通りです。</p> <p>(1) 小売業の種類が説明できる。 (2) マーチャンダイジングの基本的役割が説明できる。 (3) ストアオペレーションの基本的役割が説明できる。 (4) マーケティングの基本的役割が説明できる。 (5) 販売・経営管理の基本的役割が説明できる。 (6) リテールマーケティング(販売士)3級検定試験の合格を目指します。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	小売業の種類が説明できる。	小売業の基本的役割が理解できる。	小売業の基本的な用語が理解できない。		
評価項目2	マーチャンダイジングの基本的役割が説明できる。	マーチャンダイジングの基本的役割が理解できる。	マーチャンダイジングの基本的な用語が理解できない。		
評価項目3	ストアオペレーションの基本的役割が説明できる。	ストアオペレーションの基本的役割が理解できる。	ストアオペレーションの基本的な用語が理解できない。		
評価項目4	マーケティングの基本的役割が説明できる。	マーケティングの基本的役割が理解できる。	マーケティングの基本的な用語が理解できない。		
評価項目5	販売・経営管理の基本的役割が説明できる。	販売・経営管理の基本的役割が理解できる。	販売・経営管理の基本的な用語が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	小売業における一連の作業プロセスとしてのマーチャンダイジングの構成要素と全体像を学習します。 ※この科目では、サービス業での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な商品計画教育を行う。				
授業の進め方・方法	板書等を中心に進めていきます。 適宜、確認のための練習問題や小テストを行う予定です。				
注意点	自学自習ノートも評価の対象にする場合があります。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1..小売業の種類：流通における小売業の基本的役割	流通における小売業の基本的役割について説明できる。	
		2週	1..小売業の種類：流通経路別小売業の基本的役割	流通経路別小売業の基本的役割について説明できる。	
		3週	1..小売業の種類：形態別小売業の基本的役割	形態別小売業の基本的役割について説明できる。	
		4週	1..小売業の種類：店舗形態別小売業の基本的役割	店舗形態別小売業の基本的役割について説明できる。	
		5週	1..小売業の種類：チェーンストアの基本的役割	チェーンストアの基本的役割について説明できる。	
		6週	1..小売業の種類：商業集積の基本的役割と仕組み	商業集積の基本的役割と仕組みについて説明できる。	
		7週	2.マーチャンダイジング：商品の基本知識とマーチャンダイジングの基本	商品の基本知識とマーチャンダイジングの基本について説明できる。	
		8週	2.マーチャンダイジング：商品計画の基本	商品計画の基本について説明できる。	
	2ndQ	9週	2.マーチャンダイジング：商品計画の基本	商品計画の基本について説明できる。	
		10週	2.マーチャンダイジング：仕入計画の基本的役割	仕入計画の基本的役割について説明できる。	
		11週	2.マーチャンダイジング：在庫管理の基本的役割	在庫管理の基本的役割について説明できる。	
		12週	2.マーチャンダイジング：販売管理の基本的役割	販売管理の基本的役割について説明できる。。	
		13週	2.マーチャンダイジング：価格設定の基本的考え方	価格設定の基本的考え方について説明できる。	
		14週	2.マーチャンダイジング：利益追求の基本知識	利益追求の基本知識について説明できる。	
		15週	3ストアオペレーション：ストアオペレーションの基本的役割	ストアオペレーションの基本的役割について説明できる。	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	3ストアオペレーション：ディスプレイの基本的役割	ディスプレイの基本的役割について説明できる。	
		2週	3ストアオペレーション：作業割当ての基本的役割	作業割当ての基本的役割について説明できる。	
		3週	3ストアオペレーション：人的販売の基本的考え方	人的販売の基本的考え方について説明できる。	
		4週	4.マーケティング：小売業のマーケティングの基本的考え方	小売業のマーケティングの基本的考え方について説明できる。	
		5週	4.マーケティング：顧客管理の基本的役割	顧客管理の基本的役割について説明できる。	

		6週	4.マーケティング：販売促進の基本的役割が理解できる。	販売促進の基本的役割について説明できる。
		7週	4.マーケティング：商圈の設定と出店の基本的考え方	商圈の設定と出店の基本的考え方について説明できる。
		8週	4.マーケティング：商圈の設定と出店の基本的考え方	商圈の設定と出店の基本的考え方について説明できる。
	4thQ	9週	4.マーケティング：売り場づくりの基本的考え方	売り場づくりの基本的考え方について説明できる。
		10週	5.販売・経営管理：販売員の基本業務	販売員の基本業務について説明できる。
		11週	5.販売・経営管理：売員の法令知識	販売員の法令知識について説明できる。
		12週	5.販売・経営管理：販売事務と計数管理の基本的知識が理解できる。	販売事務の基本的知識について説明できる。
		13週	5.販売・経営管理：計数管理の基本的知識	計数管理の基本的知識について説明できる。
		14週	5.販売・経営管理：売場の人間関係	売場の人間関係について説明できる。
		15週	5.販売・経営管理：店舗管理の基本的役割	店舗管理の基本的役割について説明できる。
16週	学年末試験			

評価割合

	定期試験	小テスト等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	0	10	0	0	60
専門的能力	30	10	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ビジネス英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1954001	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	配布資料				
担当教員	小川 春樹				
到達目標					
<p>(1)日本語を適切に理解及び運用することができる。</p> <p>(2)上記(1)を基に、日本語を適切な英語で、英語を適切な日本語で捉えることができる。</p> <p>(3)異文化理解の姿勢を持ち、その第一歩として適切な語彙力を有する。</p> <p>(4)日本語と英語の両言語を一对一の対連合関係ではなく、両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。</p> <p>(5)「話す、聞く、読む、書く」の四技能の理解及び運用の能力を有する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1: 日本語の理解と運用	日本語を適切に理解及び運用することができる。	日本語の語感や意味を説明できる。	日本語の語感や意味を言語化できない。		
評価項目2: 英語の理解と運用	上記(1)を基に、日本語を適切な英語で、英語を適切な日本語で捉えることができる。	自分の言葉で両言語の異同を言語化することができる。	教員によるサポートがあっても両言語の異同を言語化できない。		
評価項目3: 言語に対する意識	異文化理解の姿勢を持ち、その第一歩として適切な語彙力を有する。	授業で紹介された語彙・表現に関しては全て理解し運用もできる。	授業で紹介された語彙・表現の理解及び運用ができない。		
評価項目4: 総合的な言語形式の理解と運用	日本語と英語の両言語を一对一の対連合関係ではなく、両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。	両言語における言語形式及び文型の使用法を理解している。	両言語における言語形式及び文型の使用法を理解できない。		
評価項目5: 実践的な知識の理解と運用	「話す、聞く、読む、書く」の四技能の理解及び運用の能力を有する。	話す・聞く: 授業での会話練習で教員の問いかけに対して意味交渉をすることができる。 読む・書く: 綴りや言語形式を正しく書くことができる。	話す・聞く: 言語的に意思表示ができない。 読む・書く: 綴りや言語形式が正しく書けない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>(1) 授業では「Bushido」を読み、ストーリーに焦点を当て、英語の特異な表現や日本の精神とヨーロッパ思想的な解釈を理解し、それについて自ら考え、自らの言葉で相手に伝える訓練を行う。また、洋画から英語の表現や文化を学ぶ、主として講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションや発表を行うこともある。</p> <p>(2) 両言語の文化的背景や統語的・語彙的異同を理解し、総合的に様々な英語の資格のスコアアップを目指す。</p> <p>(3) 暗記の勧めや試験においての得点力に関しては優先順位は低く、英語をツールとして利用できるようになることを目指す。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業は主として以下のように大きく三つのパートからなる。英語力の総合的な向上を目指し、「Bushido」を読み、理解する。扱った内容に関する英語表現や単語、ストーリーの流れをレクチャーしたのち、自らの経験や将来と照らし合わせ、自己理解や自己分析を行う。その内容について英語を使いコミュニケーションをとる練習を行う。また、ストーリーに登場する想像の難しい事柄については、体験を重視し、理解に努める。また、洋画に関しては、ストーリーや内容への感想や考えを英語で述べるとともに、海外文化への理解と関心を高める。教員は適宜机間巡視を行うので、積極的に取り組み、質問があれば授業時間内に必ず解決することを求めたい。</p>				
注意点	<p>(1) 主として講義形式で進めるが、必要に応じて発表やディスカッションを行う。積極的な参加を求めたい。</p> <p>(2) 不明な点がある場合は積極的に質問すること。</p> <p>(3) 自分で考え、教員からの問いかけに対して自分の言葉で考えを言語化する姿勢を持ってほしい。</p> <p>(4) 授業スケジュールは履修者の理解度に応じて適宜変更するため、あくまでも暫定的なものであることを申し添える。</p> <p>(5) それぞれの学生の英語力向上意識に対して、幅広い対応を目指すため、自己の意識を授業の初めに確認しておくことを勧める。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業進行上の注意点、成績評価などに関して理解する。	
	2週	Bushido preface	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		
	3週	Bushido chapter 1	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		
	4週	Bushido chapter 2	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		
	5週	Bushido chapter 2	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		
	6週	Bushido chapter 3	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		
	7週	Bushido chapter 4	熟語表現、語彙を理解し、自ら使えるようになり、異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。		

2ndQ	8週	Bushido chapter 5	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	9週	Bushido chapter 6	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	10週	Bushido chapter 7	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	11週	Bushido chapter 7	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	12週	Bushido chapter 8	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	13週	Bushido chapter 8	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	14週	Bushido chapter 9	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	15週	Bushido chapter 9	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	16週	Bushido chapter 10	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
	3rdQ	1週	Bushido chapter 11	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		2週	Bushido chapter 12	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		3週	Bushido chapter 12	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		4週	Bushido chapter 13	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		5週	Bushido chapter 13	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		6週	Bushido chapter 14	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		7週	Bushido chapter 14	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
8週		Bushido chapter 15	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。	
4thQ		9週	Bushido chapter 15	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		10週	Bushido chapter 16	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		11週	Bushido chapter 16	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		12週	Bushido chapter 17	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		13週	Bushido chapter 17	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		14週	Bushido	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		15週	Bushido	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。
		16週	学年末課題	熟語表現，語彙を理解し，自ら使えるようになり，異文化の理解や自己の意見や考えを伝えることができる。

後期

評価割合

	試験	提出物	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	80	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	80	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	コーポレートガバナンス
科目基礎情報					
科目番号	1954002		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	ポケット六法				
担当教員	金子 春生				
到達目標					
1. 会社の統治の仕方を理解する。 2. 会社と会社に関わる利害関係者との利益の調整の仕組みを理解する。 3. 社会を自分の目で観て、分析することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	株式、株式の種類、株式の譲渡、株主などについて理解し、説明できる。		株式について理解し、説明できる。		株式について理解し、説明できない。
評価項目2	株式会社の機関、株主総会、取締役会、監査役会などについて理解し、説明できる。		株式会社の機関について理解し、説明できる。		株式会社の機関について理解し、説明できない。
評価項目3	個人情報保護法、知的財産法について、事例を分析し法的問題点について理解し、説明できる。		個人情報保護法、知的財産法の基礎概念について理解し、説明できる。		個人情報保護法、知的財産法の基礎概念について理解し、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	会社の形態には様々なものがあり、そこには各々異なるルールが存在する。会社には多くの利害関係者がいる。株主、取締役、監査役、会計参与、債権者、労働者、顧客など挙げればきりが無い。そのような多くの利害関係者を抱える会社をどのように統治するべきかというのがコーポレートガバナンスとして学ぶことである。社会に出て、会社に勤めるのであれば、そうでなくてもそのルールはビジネスパーソンとしては知っておくべき基礎的な知識であると言える。 ※この科目では、官公庁での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な組織論等の教育を行う。				
授業の進め方・方法	(1) コーポレートガバナンス、コンプライアンスなど近年多く使われる言葉を正確に理解する。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。 (3) 授業内容についてわからないことがあれば、積極的に質問し、理解するように努める。 (4) 授業1回分の時間を使い「日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナー」を開催する場合がある。本セミナーは実務家である弁理士の先生をお呼びして、特許実務についての講演をしていただくものである。				
注意点	毎時間、その日の授業についてのコメントを専用のシートに書いて、提出してもらう。書かれていない項目などがあれば、課題点から減点する。 半期科目であるので、課題を試験と課題の割合は、6:4を基本とするが、学生の課題の提出が良いようであれば、5:5とする場合もある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.導入	1企業で働くうえでかわかる法律について理解し、説明できる。	
		2週	2.個人情報保護法	2企業における個人情報保護の在り方を理解し、説明できる。	
		3週	3.知的財産法	3.企業における知的財産法の在り方を理解し、説明できる。	
		4週	4.会社の意義	4 株式会社の性質、株主と経営者の関係について理解し、説明できる。	
		5週	5.会社の設立	5会社の設立手続きの概要、定款の作成を理解し、説明できる。	
		6週	6.株主と株式	6-(1) 株主の責任と権利、株式の内容・種類について理解し、説明できる。	
		7週	6.株主と株式	6-(2) 株主名簿、株式の譲渡について理解し、説明できる。	
		8週	6.株主と株式	6-(3) 自己株式の取得、株券発行会社について理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	7.株式会社の機関	7-(1) 機関の意義、公開会社・非公開会社について理解し、説明できる。	
		10週	7.株式会社の機関	7-(2) 株主総会、取締役・取締役会について理解し、説明できる。	
		11週	7.株式会社の機関	7-(3) 会計参与、監査役・監査役会、会計監査人について理解し、説明できる。	
		12週	7.株式会社の機関	7-(4) 役員の損害賠償責任について理解し、説明できる。	
		13週	8.資金調達	8-(1) 株式発行の形態、株式発行の手続きについて理解し、説明できる。	
		14週	8.資金調達	8-(2) 新株予約権、敵対的買収と対抗策について理解し、説明できる。	
		15週	9.組織再編	9 会社の合併、会社分割について理解し、説明できる。	

		16週	前期末試験 答案返却・解説				
評価割合							
	試験	課題	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	40	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報セキュリティ		
科目基礎情報							
科目番号	1954003		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	参考書: 情報セキュリティ読本 四訂版 (実教出版)、コンピュータネットワーク入門 -TCP/IPプロトコル群とセキュリティ- (サイエンス社)						
担当教員	加藤 博明						
到達目標							
(1)外部リスク要因、内部リスク要因が説明できる。 (2)脅威とその対策が説明できる。 (3)セキュリティ対策とセキュリティ技術が説明できる。 (4)暗号化技術とその応用が説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		リスク要因が説明でき、対策を自ら考察できる。	リスク要因が説明できる。	リスク要因が説明できない。			
評価項目2		脅威とその対策が説明でき、自ら提案できる。	脅威とその対策が説明できる。	脅威とその対策が説明できない。			
評価項目3		セキュリティ対策とセキュリティ技術が説明でき、自ら提案できる。	セキュリティ対策とセキュリティ技術が説明できる。	セキュリティ対策とセキュリティ技術が説明できない。			
評価項目4		暗号化技術が説明でき、応用ができる。	暗号化技術が説明できる。	暗号化技術が説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	情報セキュリティの基礎を学び、脅威およびその対策を学習する。セキュリティ対策とセキュリティ技術について学び、最後に、暗号化技術を習得する。						
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことばあれば、積極的に質問すること。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	1. セキュリティリスク	1-(1) 危険の認識と対策の必要性が説明できる。			
		2週	2. 情報セキュリティの基礎	2-(1) 情報セキュリティの概要が説明できる。			
		3週	2. 情報セキュリティの基礎	2-(2) 外部・内部のリスク要因が説明できる。			
		4週	3. 脅威とその対策	3-(1) マルウェアとは何かが説明できる。			
		5週	3. 脅威とその対策	3-(2) セキュリティ対策の基本が説明できる。			
		6週	3. 脅威とその対策	3-(3) 標的型、誘導型攻撃への対策を説明できる。			
		7週	4. 情報セキュリティ対策	4-(1) 組織のセキュリティ対策が説明できる。			
		8週	4. 情報セキュリティ対策	4-(2) 組織の一員としてのセキュリティ対策が説明できる。			
	4thQ	9週	5. セキュリティ技術	5-(1) パスワードの重要性が説明できる。			
		10週	5. セキュリティ技術	5-(2) 典型的な攻撃手法が説明できる。			
		11週	6. セキュリティ対策演習	6-(1) 組織のセキュリティ対策が説明できる。			
		12週	6. セキュリティ対策演習	6-(2) 社会を支える情報システムのセキュリティ対策を理解し、説明できる。			
		13週	7. セキュリティの基礎理論	7-(1) 暗号とデジタル署名の概念が説明できる。			
		14週	7. セキュリティの基礎理論	7-(2) 秘密鍵と公開鍵の特徴が説明できる。			
		15週	7. セキュリティの基礎理論	7-(3) 公開鍵暗号の基本アルゴリズムを理解し、説明できる。			
		16週	後期末試験 答案返却・解説				
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	プロジェクト管理			
科目基礎情報								
科目番号	1954004		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	参考書: 「改訂6版 PMプロジェクト・マネジメント」中嶋 秀隆 (日本能率協会マネジメントセンター)							
担当教員	加藤 博明							
到達目標								
(1)プロジェクトマネジメントの目的および考え方が説明できる。 (2)プロジェクトマネジメントのプロセス群が説明できる。 (3)プロジェクトマネジメントの知識エリアが説明できる。 (4)プロジェクトの体制の種類、特徴、役割、責任分担および自己管理、プロジェクトの評価が説明できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	プロジェクトマネジメントの目的および考え方が具体的に説明できる。		プロジェクトマネジメントの目的が説明できる。		プロジェクトマネジメントの目的が説明できない。			
評価項目2	プロジェクトマネジメントのプロセス群とその流れが具体的に説明できる。		プロジェクトマネジメントのプロセス群の基本的な用語が説明できる。		プロジェクトマネジメントのプロセス群の基本的な用語が説明できない。			
評価項目3	プロジェクトマネジメントの知識エリアとその体系が説明できる。		プロジェクトマネジメントの知識エリアの基本的な用語が説明できる。		プロジェクトマネジメントの知識エリアの基本的な用語が説明できない。			
評価項目4	プロジェクトの体制の種類、特徴、役割、責任分担および自己管理、プロジェクトの評価が説明でき、実践に応用できる。		プロジェクトの体制、およびプロジェクトの評価が説明できる。		プロジェクトの体制、およびプロジェクトの評価が説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	目標達成のために行う期限のある活動であるプロジェクトの基本的な知識を習得する。また、プロジェクトをPDCAサイクルでマネジメントすることを理解し、実践できるようにする。							
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことばあれば、積極的に質問すること。							
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	1. プロジェクトマネジメントの概要			1-(1) プロジェクトとは何かが説明できる。		
		2週	1. プロジェクトマネジメントの概要			1-(2) プロジェクトマネジメントの三つの要素が説明できる。		
		3週	2. プロジェクトの立ち上げ			2-(1) プロジェクトが必要になる背景が説明できる。		
		4週	2. プロジェクトの立ち上げ			2-(2) プロジェクトの妥当性を判断する4条件が説明できる。		
		5週	3. プロジェクトの目標設定			3-(1) 成果物とスコープ、QCDの優先順位が決定できる。		
		6週	3. プロジェクトの目標設定			3-(2) SMARTの原則に基づいてプロジェクトの目標が設定できる。		
		7週	4. プロジェクトの計画			4-(1) ワークパッケージの洗い出しができる。		
	8週	4. プロジェクトの計画			4-(2) ワークパッケージの役割分担ができる。			
	2ndQ	9週	4. プロジェクトの計画			4-(3) ネットワーク図を作り、クリティカルパスを明らかにすることができる。		
		10週	4. プロジェクトの計画			4-(4) メンバーの負荷をならすことができる。		
		11週	5. 予算・その他の計画			5-(1) 品質計画を立てることができる。		
		12週	5. 予算・その他の計画			5-(2) 調達計画を立てることができる。		
		13週	6. リスクマネジメント			6-(1) リスク分析ができる。		
		14週	7. プロジェクトの実行とコントロール			7-(1) プロジェクトの実績と計画を分析できる。		
		15週	8. プロジェクトの終結			8-(1) プロジェクトを終え、教訓を得ることができる。		
16週		前期末試験 答案返却・解説						
評価割合								
	試験	小テスト	課題・レポート	発表	成果品・実技	その他	合計	
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	0	30	0	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	ソフトウェア工学	
科目基礎情報							
科目番号	1954005		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	岩切 裕哉						
到達目標							
(1)情報システムを開発する際の要求分析ができる。 (2)UMLを理解する。 (3)情報システムの設計方法を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	開発プロセスモデル、システム化計画、ソフトウェア分析設計を理解でき、説明できる。		開発プロセスモデル、システム化計画、ソフトウェア分析設計を理解できる。		開発プロセスモデル、システム化計画、ソフトウェア分析設計を理解できない。		
評価項目2	要求分析や業務分析の概要を理解し、分析できる。		要求分析や業務分析の概要を理解できる。		要求分析や業務分析の概要を理解できない。		
評価項目3	UMLを理解し、UMLを使って適切に表すことができる。		UMLを理解できる。		UMLを理解できない。		
評価項目4	構造化システム分析設計を理解でき、設計できる。		構造化システム分析設計を理解できる。		構造化システム分析設計を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ビジネスが多様化し、それに伴い様々な業務システムが利用されているが、システム開発は複雑になり容易なことではない。ビジネスを行う上で重要なシステム構築について学習する。具体的には、ソフトウェア開発・システム開発の流れを学習し、開発計画、要求分析、システム分析、オブジェクト指向分析設計など開発段階の手法を学習する。						
授業の進め方・方法	適宜、資料等を配布して授業を進めます。 また、演習を行いレポートを提出してもらいます。						
注意点	不明な点があれば遠慮無く質問してください。 また、研究室まで質問しにきてください。(昼休みにはなるべく研究室にいますようにしています)						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	システム開発の流れ	システム開発の流れを説明できる。			
		2週	要件定義	要件定義に必要な考え方や進め方に関する基礎的なことを説明できる。要件定義の成果物について説明できる。機能要件について説明できる。			
		3週	業務分析	業務分析の目的や流れを説明できる。			
		4週	業務分析	ビジネスプロセスモデリングの手法を説明できる。アクティビティ図が書ける。			
		5週	UML	ユースケース図について説明できる。			
		6週	UML	ユースケース図が書ける。			
		7週	要件定義	ユーザとベンダのギャップについて説明できる。			
		8週	要件定義	要件定義の重要性について説明できる。			
	4thQ	9週	基本設計	基本設計の概要について説明できる。			
		10週	基本設計	アプリケーション設計を説明できる。			
		11週	基本設計	入出力設計を説明できる。			
		12週	基本設計	画面設計、帳票設計を説明できる。			
		13週	基本設計	データベース設計を理解する。ER図、テーブル定義について説明できる。			
		14週	基本設計	データベースの正規化をすることができる。			
		15週	詳細設計	詳細設計の概要を説明できる。			
		16週	学年末試験答案返却・解説				
評価割合							
	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	卒業研究
科目基礎情報					
科目番号	1954006	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 12		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	12		
教科書/教材	参考書 各研究室のテーマに関する専門書および研究論文				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
(1) 自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。 (2) 研究の目的を理解し、実験・社会調査を計画・遂行し、結果を整理して解析できる。 (3) 研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて論文が作成できる。 (4) 研究成果の資料を作成して発表し、説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができない。		
評価項目2	研究の目的を理解し、実験・社会調査を計画・遂行し、結果を整理して解析できる。	研究の目的を理解し、実験・社会調査を計画・遂行し、結果を整理して解析できる。	研究の目的を理解し、実験・社会調査を計画・遂行し、結果を整理して解析できない。		
評価項目3	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて論文が作成できる。	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて論文が作成できる。	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて論文が作成できない。		
	研究成果の資料を作成して発表し、説明することができる。	研究成果の資料を作成して発表し、説明することができる。	研究成果の資料を作成して発表し、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	文献調査、研究計画、実験・社会調査の実施および結果の解析と考察を通して、専門的知識・技術を活用して流通情報工学分野の仕組みやシステムを創造する能力を習得し、その技術を基に問題点を発見してその解決策を計画・実現する能力、および研究成果をまとめて発表し説明する能力を身につけることを目的とする。地域に特有の問題（離島、過疎、高齢化等）に関連するテーマも積極的に取り扱う。 学生は各研究室に配属され、担当教員による個人指導を受け、学年末に卒業論文を提出するとともに研究成果を発表する。 本科目は5年間の集大成であり、実験実習をはじめとして全ての専門科目と関連する。				
授業の進め方・方法	(1) 卒業研究の担当教員が個別指導を行う。 (2) 研究テーマに関する専門科目の授業の復習、専門書や研究論文等の文献を読んで理解に務めること。 (3) テーマへの取り組み姿勢、実験・社会調査データ分析・レポート・卒業論文・アブストラクトおよび卒業研究の発表を考慮に入れ総合的に評価する。				
注意点	【担当：流通情報工学科各教員】				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 研究準備	研究準備（調査・予備実験など）を行うことができる。	
		2週	1. 研究準備	研究準備（調査・予備実験など）を行うことができる。	
		3週	1. 研究準備	研究準備（調査・予備実験など）を行うことができる。	
		4週	1. 研究準備	研究準備（調査・予備実験など）を行うことができる。	
		5週	1. 研究準備	研究準備（調査・予備実験など）を行うことができる。	
	2ndQ	6週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		7週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		8週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		9週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		10週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		11週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		12週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		13週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		14週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		15週	2. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		16週	3. 卒業研究の中間発表	(1) 卒業研究の目的を説明できる (2) 卒業研究の実験内容・方法を説明できる (3) 卒業研究でこれまでに得られた結果や、今後の課題を説明できる	
後期	3rdQ	1週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		2週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	

		3週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		4週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		5週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		6週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		7週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		8週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
		4thQ	9週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。
			10週	4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。
	11週		4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
	12週		4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
	13週		4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
	14週		4. 研究実施	調査・実験・データ整理・解析などを実施できる。	
	15週		5. 卒業研究発表	(1) 卒業研究の目的を理解し、口頭で発表することができる。 (2) 卒業研究の内容を理解し、口頭で発表することができる。 (3) 卒業研究で得られた結果を理解し、口頭で発表することができる。 (4) 卒業研究で得られた結果について考察を口頭で発表することができる。 (5) 卒業研究で得られた結論を口頭で発表することができる。	
	16週		6. 卒業論文提出	卒業研究の成果を取りまとめることができる。	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	40	0	0	0	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	0	30	50
分野横断的能力	0	20	0	0	0	30	50

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	流通情報システム論
科目基礎情報					
科目番号	1954007		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	特に指定しない				
担当教員	岡山 正人				
到達目標					
<p>これまでに学校の座学で身に着けて来た、社会人としての基礎能力と、専門課程で学んできた専門知識を融合し、企業での実習を有意義に過ごす。</p> <p>その上で、自分自身の適性、適職への認識を深め、また、実習先の企業での職種ならびに業種について理解を深める。</p> <p>その上で、自分自身の人生の道筋としての企業人としての在り方を自覚する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>企業をはじめ様々な分野の方から講演をいただき、実社会での活動、語学や異文化、社会や産業の状況を把握するとともに、これまでに主として座学で学んだ理論あるいは実験で学んだ事柄が、実際にどのように応用されているかを実務を通して理解する。また、実社会でのグローバル技術者としての心構えについて自ら考え、知識や技術、情報などを自発的かつ継続的に獲得する能力を養う。</p>				
授業の進め方・方法	様々な講演を視聴して、それに関する発表会やレポートの作成を行ってもらう。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	システム開発
科目基礎情報					
科目番号	1954008		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: Monacaで学ぶはじめてのプログラミング				
担当教員	岩切 裕哉				
到達目標					
(1)インターネットの概要を説明できる。 (2)HTML, CSS, Javascriptを使ったホームページを作成できる。 (3)ハイブリッドアプリについて説明できる。 (4)簡単なハイブリッドアプリを開発できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	インターネットの概要を理解し、説明できる。		インターネットの概要を理解できる。		インターネットの概要を理解できない。
評価項目2	HTML, CSS, Javascriptの概要を理解し、ホームページを思い通りに作成できる。		HTML, CSS, Javascriptの概要を理解し、ホームページを作成できる。		HTML, CSS, Javascriptの概要を理解できない。
評価項目3	ハイブリッドアプリ開発について理解し、簡単なアプリを開発できる。プログラムについて説明できる。		ハイブリッドアプリ開発について理解し、簡単なアプリを開発できる。		ハイブリッドアプリ開発について理解できない。
評価項目4	ハイブリッドアプリで簡単なオリジナルのプログラムを作成することができ、プログラムの手順について説明できる。		ハイブリッドアプリで簡単なオリジナルのプログラムを作成することができる。		ハイブリッドアプリで簡単なオリジナルのプログラムを作成できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	HTMLやJavascriptを応用した、ハイブリッド開発を用いた、モバイルアプリ開発を通して、システム開発手法を体験的に学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。教科書を参考に、予習復習を必ずすること。演習課題をレポートとして提出してもらう。課題は必ず提出すること。				
注意点	不明な点があれば、研究室まで質問しに来てください(昼休みにはなるべく研究室にいます)				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 開発環境の準備	ハイブリッドアプリ開発環境について説明できる。 ハイブリッドアプリのプログラムの構造を説明できる。	
		2週	HTMLの基礎	HTML, CSSを説明できる。	
		3週	HTMLの基礎	HTML, CSSを使ったホームページを作成できる。	
		4週	HTMLの基礎	Javascriptの基本的な構文を使ったホームページを作成できる。	
		5週	アプリ開発入門	ハイブリッドアプリ開発環境について説明できる。 ハイブリッドアプリのプログラムの構造を説明できる。	
		6週	アプリ開発入門	簡単なハイブリッドアプリを開発できる。 開発用コンピュータを用いて、ターゲットマシンで動作するプログラムを開発する技法を学ぶ。	
		7週	アプリ開発入門	簡単なハイブリッドアプリを開発できる。 開発用コンピュータを用いて、ターゲットマシンで動作するプログラムを開発する技法を学ぶ。	
		8週	アプリ開発入門	簡単なハイブリッドアプリを開発できる。 開発用コンピュータを用いて、ターゲットマシンで動作するプログラムを開発する技法を学ぶ。	
	2ndQ	9週	アプリ開発入門	簡単なハイブリッドアプリを開発できる。 開発用コンピュータを用いて、ターゲットマシンで動作するプログラムを開発する技法を学ぶ。	
		10週	オリジナルアプリ開発	オリジナルアプリの企画ができる。	
		11週	オリジナルアプリ開発	発表できる。	
		12週	オリジナルアプリ開発	プログラムをどのような手順で作成したらよいか理解できている。 プログラムの制御構造を理解し、使い方を習得している。 プログラムにおける変数を理解し、使い方を習得している。 プログラムの間違いの原因を考え、修正できる。	

		13週	オリジナルアプリ開発	プログラムをどのような手順で作成したらよいか理解できている。 プログラムの制御構造を理解し、使い方を習得している。 プログラムにおける変数を理解し、使い方を習得している。 プログラムの間違いの原因を考え、修正できる。
		14週	オリジナルアプリ開発	プログラムをどのような手順で作成したらよいか理解できている。 プログラムの制御構造を理解し、使い方を習得している。 プログラムにおける変数を理解し、使い方を習得している。 プログラムの間違いの原因を考え、修正できる。
		15週	オリジナルアプリ開発	発表できる。
		16週	前期末試験答案返却・解説	答案返却・解説

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	10	50	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	50	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ソフトウェア開発		
科目基礎情報							
科目番号	1954009		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	Monacaで学ぶはじめてのプログラミング						
担当教員	岩切 裕哉						
到達目標							
(1)Vue.jsを使ったハイブリッドアプリが開発できる。 (2)ソフトウェアの設計を行うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	企画立案し、必要な作業を全て洗い出すことができ、適切にスケジュールを見積もることができる。		企画立案できる。スケジュールを見積もることができる。		企画立案できない。		
評価項目2	Vue.jsの概要を理解し思い通りに作成できる。		Vue.jsを用いて開発できる。		Vue.jsを用いて開発できない。		
評価項目3	開発したシステムについてプレゼンテーションでき、適切に質疑に答えられる。		開発したシステムについてプレゼンテーションできる。		開発したシステムについてプレゼンテーションできない。		
評価項目4	プロジェクトのまとめができ、問題点や改善点を洗い出すことができる。		プロジェクトのまとめができる。		プロジェクトのまとめができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	テーマに沿ったシステム/ソフトウェア開発を通して、ソフトウェア開発手法を体験的に学ぶと。HTMLやJavascriptを応用した、Vue.jsを使ったハイブリッドアプリによるシステム開発を行う。						
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。						
注意点	不明な点があれば、Teamsのチャットもしくは、研究室まで質問しに来てください（昼休みにはなるべく研究室にいます）						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	Vue.jsの概要	Vue.jsのプログラムの構造を理解できる。			
		2週	コンポーネント	Vue.jsのコンポーネントの概要を理解できる。			
		3週	ページ遷移	ページ遷移の仕組みを理解できる。			
		4週	データの受け渡し	コンポーネント間のデータの受け渡しを理解できる。			
		5週	CSS	CSSで外観を変えることができる。			
		6週	メニュー	メニュー構造を作ることができる。			
		7週	電卓アプリ作成	電卓アプリを作ることができる。			
		8週	Firebase	Firebaseを使って、クラウド上にデータを保存することができる。			
	4thQ	9週	ゲームアプリ作成	これまで学んだことを生かし、ゲームアプリを作ることができる。			
		10週	ゲームアプリ作成	これまで学んだことを生かし、ゲームアプリを作ることができる。			
		11週	ソフトウェア設計	ソフトウェア設計を行うことができる。 (ユースケース図、アクティビティ図など)			
		12週	ソフトウェア設計	ソフトウェア設計を行うことができる。 (ユースケース図、アクティビティ図など)			
		13週	オリジナルアプリ作成	設計した内容を基に、アプリを作成できる。			
		14週	オリジナルアプリ作成	設計した内容を基に、アプリを作成できる。			
		15週	オリジナルアプリ作成	設計した内容を基に、アプリを作成できる。			
		16週	試験返却	試験返却、解説			
評価割合							
	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	10	50	0	0	0	100
基礎的能力	30	10	30	0	0	0	70
専門的能力	10	0	20	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	システム運用
科目基礎情報					
科目番号	1954010	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	流通情報工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 『Linuxサーバ構築標準教科書』 (LPI-JAPAN)				
担当教員	加藤 博明				
到達目標					
(1)Linuxサーバのインストールおよび初期設定ができる。 (2)各種サーバの構築およびセキュリティに配慮した設定ができる。 (3)各種サーバのログファイルおよびプロセスの監視ができる。 (4)セキュリティに配慮したシステム運用ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Linuxサーバのインストールおよび初期設定を理解して実践できる。	Linuxサーバのインストールおよび初期設定ができる。	Linuxサーバのインストールおよび初期設定ができない。		
評価項目2	各種サーバの構築およびセキュリティに配慮した設定を理解して実践できる。	各種サーバの構築およびセキュリティに配慮した設定ができる。	各種サーバの構築およびセキュリティに配慮した設定ができない。		
評価項目3	各種サーバのログファイルおよびプロセスの監視を理解して実践できる。	各種サーバのログファイルおよびプロセスの監視ができる。	各種サーバのログファイルおよびプロセスの監視ができない。		
評価項目4	セキュリティに配慮したシステム運用を理解し、実践できる。	セキュリティに配慮したシステムの運用ができる。	セキュリティに配慮したシステムの運用ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ネットワークを含めた情報システムの構成・設定・運用のための基盤技術を、主としてシングルボードコンピュータを用いた演習を通じて学ぶ。				
授業の進め方・方法	(1) 講義と演習を組み合わせながら進める。 (2) 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 (3) 学習内容についてわからないことばあれば、積極的に質問すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	0. コンピュータの基本構成	RaspberryPi を例に、コンピュータの基本構成を復習し、その組み立てができる。	
		2週	0. コンピュータの基本構成	ネットワークの物理的な構成を理解し、接続できる。	
		3週	1. Linuxサーバのインストール	Linuxサーバのクリーンインストール・パッケージマネージャによるアップデートおよび新規インストールができる。	
		4週	1. Linuxサーバのインストール	Linuxサーバのクリーンインストール・パッケージマネージャによるアップデートおよび新規インストールができる。	
		5週	2. Linuxサーバの基礎	Linuxの基本的なCUI操作が操作できる。エディタの操作ができる。	
		6週	2. Linuxサーバの基礎	Linuxサーバの各種情報を取得することができる。	
		7週	3. Linuxサーバの設定	シェルスクリプトを作成し、実行することができる。	
		8週	3. Linuxサーバの設定	Linuxサーバのユーザ権限やパーミッションについて理解し、適切な設定ができる。	
	2ndQ	9週	3. Linuxサーバの設定	Linuxサーバのネットワークを設定することができる。	
		10週	4. Webサーバの設定	Webサーバについて理解し、構築に必要なソフトウェアをインストールできる。	
		11週	4. Webサーバの設定	Webサーバを正しく設定できる。	
		12週	4. Webサーバの設定	Webサーバを正しく稼働できる。	
		13週	5. サーバ管理	サーバの稼働状況を管理することができる。	
		14週	5. サーバ管理	各種ログの取り方を設定することができる。必要なログファイルを探すことができる。	
		15週	5. サーバ管理	ログファイルを読み、異常を発見することができる。	
		16週	前期末試験 答案返却・解説		
後期	3rdQ	1週	6. クラウドコンピューティング	オンプレミスとクラウドコンピューティングの違いを説明できる。	
		2週	6. クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの種類や特徴を説明できる。	
		3週	6. クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの利用設定ができる。	
		4週	7. Pythonプログラミング	Pythonの基本構造や特徴が説明できる。	

4thQ	5週	7. Pythonプログラミング	Pythonを用いて、基本制御構造のプログラムを作成できる。	
	6週	7. Pythonプログラミング	Pythonのライブラリを用いたプログラムを作成できる。	
	7週	7. Pythonプログラミング	Pythonを用いたデータ操作ができる。	
	8週	8. データサイエンス演習	AIと機械学習の概念が説明できる。	
	9週	8. データサイエンス演習	代表的な機械学習のアルゴリズムが説明できる。	
	10週	8. データサイエンス演習	機械学習のアルゴリズムが実装できる。	
	11週	8. データサイエンス演習	機械学習のアルゴリズムが実装できる。	
	12週	9. 情報セキュリティ演習	攻撃方法（クロスサイトスクリプティング、ディレクトリ・トラバーサル）について理解する。	
	13週	9. 情報セキュリティ演習	攻撃方法（クロスサイトスクリプティング、ディレクトリ・トラバーサル）について理解する。	
	14週	9. 情報セキュリティ演習	攻撃方法（SQLインジェクション、OSコマンドインジェクション）について理解する。	
	15週	9. 情報セキュリティ演習	攻撃方法（SQLインジェクション、OSコマンドインジェクション）について理解する。	
	16週	学年末試験 答案返却・解説		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	在庫管理		
科目基礎情報							
科目番号	1954012	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	流通情報工学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	教科書は特に設定しない。参考文献として、唐沢豊著：物流概論、有斐閣ブックス、北原・児玉著：ORによる在庫管理システム、九州鶴岡大学出版、定道宏著：経営科学、オーム社など						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
現在の物流システムの中で在庫管理の意義を理解するとともに、物流管理における在庫管理の役割を理解する。また、在庫管理の考え方を理解し、在庫管理手法にどのようなものがあるかを知る。そして、安全在庫の考え方を理解し、定期発注法や発注点法について学ぶ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	前後の物流の変遷から、現在の物流システムの仕組みを説明できる	現在の物流システムの仕組みを簡単に説明できる。	現在の物流システムの仕組みについて説明できない				
評価項目2	物流管理がどのようなものかを説明でき、その中で在庫の役割について説明する事ができる。	在庫管理の必要性を説明することができる。	在庫何里の必要性を説明することができない。				
評価項目3	現在における在庫管理の考え方について、ABC分析や各種在庫管理手法とともに説明することができる。	現在における在庫管理の考え方が説明できる。	現在の在庫管理の考え方が説明できない。				
評価項目4	安全在庫の考え方が説明でき、それをもとに定期発注法や発注点法について説明できる。	安全在庫の考え方が説明でき、定期発注法や発注点法の簡単な問題が解ける。	安全在庫の考え方が説明できない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	戦後の物流の変遷から、現在の物流システムがどのような仕組みで動いているかを学ぶとともに、現在の物流における在庫管理の意義を知る。また、現在の物流管理とはどのようなものであるかを学び、その中において在庫管理の必要性や考え方などを理解する。そして、在庫管理の各種手法にどのようなものがあるかを知るとともに、需要分布と安全在庫について理解しその応用例として定期発注法や発注点法について学ぶ。						
授業の進め方・方法	今まで学修した物流に関する内容を復習しながら進めていく。また、在庫管理手法や安全在庫に関する授業では演習も取り入れる。						
注意点	教科書を設定しないため、ノートをしっかりとるようにすること。また、後半は演習も行うので、電卓を持参する。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	高度成長期の物流	高度成長期における日本の状況から当時の物流の状況について説明できる。			
		2週	安定成長期の物流	安定成長期に入って消費の多様化、経済のソフト化などから物流がどのように変化してきたかを説明できる。			
		3週	現在の物流における在庫管理の意義	現在の物流システムの仕組みについて簡単に説明でき、その中において、在庫管理の意義について説明できる。			
		4週	物流サービス	現在における物流サービスとはどのようなものかを説明できる。			
		5週	物流管理	物流管理の具体的な内容として、配送管理、作業管理、コスト管理、在庫管理があることを説明できる。			
		6週	在庫管理の必要性	物流管理における在庫管理の役割を説明できる。			
		7週	在庫管理の考え方	在庫三悪について説明できるとともに、現在における在庫管理の考え方を説明できる。			
		8週	ABC分析とアイテムカット	ABC分析について理解し、それが在庫管理にどのように利用されているかを説明できる。			
	4thQ	9週	ABC分析に関する演習	ABC分析に関する簡単な問題を解くことができる。			
		10週	在庫管理手法	様々な在庫管理手法があることを知り、それぞれがどのようなものであるかを簡単に説明できる。			
		11週	需要分布と安全在庫	需要分布と安全在庫について説明できる。			
		12週	需要分布と安全在庫の演習	与えられた需要分布から特定期間の安全在庫を求めることができる。			
		13週	定期発注法	定期発注法について説明できる。			
		14週	発注点法	発注点法について説明できる。			
		15週	発注サービス点法	定期発注法および発注点法に関する基本的な問題を解くことができる。			
		16週	学年末試験				
評価割合							
	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	輸送計画	
科目基礎情報							
科目番号	1954013		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	流通情報工学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書は特に定めない。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
1. 配送計画の手法の一つとしてセービング法を説明できる。 2. 最短経路問題としてダイクストラ法について説明できる。 3. 輸送計画問題として飛び石法が説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	セービング法を使って配送計画ができる。		配送計画の手法の一つとしてセービング法を説明できる。		配送計画の手法の一つとしてセービング法を説明できない。		
評価項目2	ダイクストラ法を使って最短経路問題の最適解を求めることができる。		最短経路問題としてダイクストラ法について説明できる。		最短経路問題としてダイクストラ法について説明できない。		
評価項目3	飛び石法を使って輸送計画問題の最適解を求めることができる。		輸送計画問題として飛び石法が説明できる。		輸送計画問題として飛び石法が説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	輸送計画は、社会システムや工学システムを数量的な側面からモデル化し、数理的手法を適用することによって望ましい輸送指針や効率的な輸送方策を見出すための学問である。本講義では、生産や輸送の問題を「いくつかの条件を満たす変数の組のなかで、ある関数の値を最大(小)にするものを求める」という最適化問題の形に記述して、問題あるいはその解のもつさまざまな性質を解析する方法を学ぶ。また、精密な解を求めるための数学的に厳密な算法だけでなく、許された時間内にできるだけ良質の解を得る近似解法についても理解を深め、ロジスティクスなどの現実の問題に応用する能力を養うことを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義を中心に授業を進めるが、単元ごとに課題をレポートとして提出してもらう。成績は、定期試験の結果と提出してもらったレポートを考慮してつける。						
注意点	課題には計算問題が多いので電卓を準備すること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1 導入		輸送計画問題がどのようなものかその概要を説明できる。		
		2週	2-1 配送計画 1		配送計画がどのようなものか説明できる。		
		3週	2-2 配送計画 2		セービング法について説明できる。		
		4週	2-3 配送計画 3		セービング法に関する基本的な問題を解くことができる。		
		5週	2-4 配送計画 4		セービング法以外の配送計画問題の解法について簡単に説明できる。		
		6週	3-1 最短経路問題 1		ネットワーク図の基本的な用語や接続行列について説明できる。		
		7週	3-2 最短経路問題 2		総当たり法により最短経路問題の最適解を求めることができる。		
		8週	前期中間試験 答案返却・解説				
	2ndQ	9週	3-3 最短経路問題 3		ダイクストラ法の手順を説明できる。		
		10週	3-4 最短経路問題 4		ダイクストラ法により最短経路問題の最適解を求めることができる。		
		11週	4-1 輸送計画問題 1		輸送計画問題がどのようなものか説明できる。		
		12週	4-2 輸送計画問題 2		輸送計画問題を数学モデルとして定式化できる。		
		13週	4-3 輸送計画問題 3		飛び石法で輸送計画問題を解く手順を説明できる。		
		14週	4-4 輸送計画問題 4		飛び石法で輸送計画問題の最適解を求めることができる。		
		15週	4-5 輸送計画問題 5		線形計画法について説明できる。		
		16週	前期末試験 答案返却・解説				
評価割合							
	試験	課題	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0